

城陽市の環境に関する市民アンケート結果

平成28年12月

城陽市 環境課

<目次>

1. 調査概要	1
2. 調査結果の詳細	2
■回答者属性	2
■現状の市政に対する評価・今後の要望	7
■住まい周辺環境の評価	13
■環境問題・市のまちづくりに対する認知度・関心度	21
■環境に配慮した暮らしの取り組み状況	26
■理想的な将来像	30
■城陽の魅力	32

巻末資料

1. 調査概要

目的

この調査は、市民の環境に関する評価や日頃の環境にやさしい行動の実践状況、環境に関する今後の方向性などについての意見を把握し、城陽市環境基本計画改訂の基礎資料とするために実施しました。

調査対象

市民 2,000 人

【選定方法】

住民基本台帳から無作為に抽出

【抽出条件】

年齢：市内に住む 18 歳以上の方

性別：男女

調査方法

回答は無記名とし、平成 28 年 9 月 30 日～10 月 17 日を調査期間として郵送調査法により実施

調査項目

- ・回答者属性
- ・現状の市政に対する評価・今後の要望について
- ・住まい周辺環境の評価について
- ・環境問題・市のまちづくりに対する認知度・関心度について
- ・環境に配慮した暮らしの取り組み状況について
- ・理想的な将来像について
- ・城陽の魅力について

回収の結果

回収数： 890 件

回収率： 44.5%

留意点

- ・集計では、四捨五入の都合上、数値の合計が 100%にならない場合があります。
- ・グラフ中の N とは、回答者数を表し、無回答を含みます。

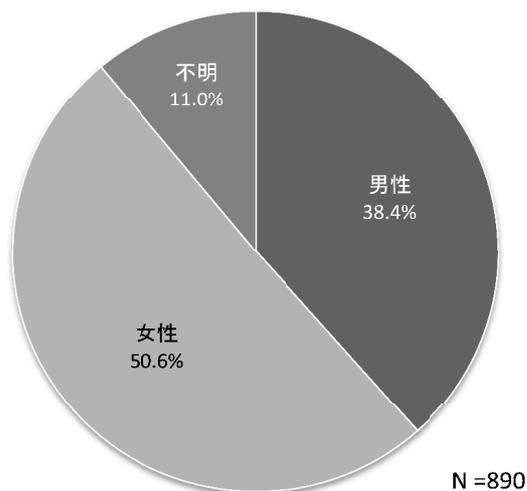
2. 調査結果の詳細

■ 回答者属性

問1 はじめに、あなたやあなたのご家族についておたずねします。(あてはまる番号1つに○)

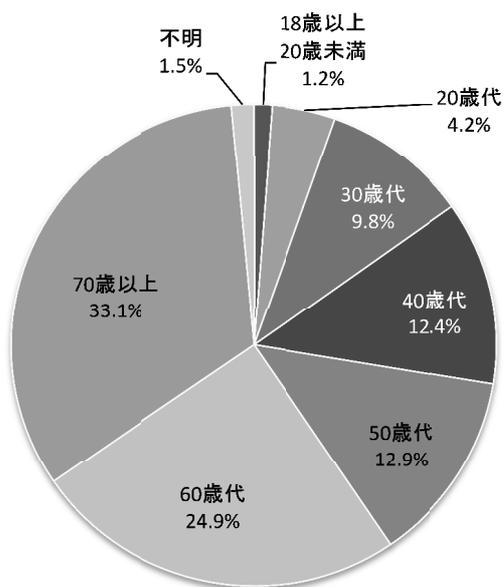
① 性別

「男性」は38.4%で、「女性」は50.6%でした。



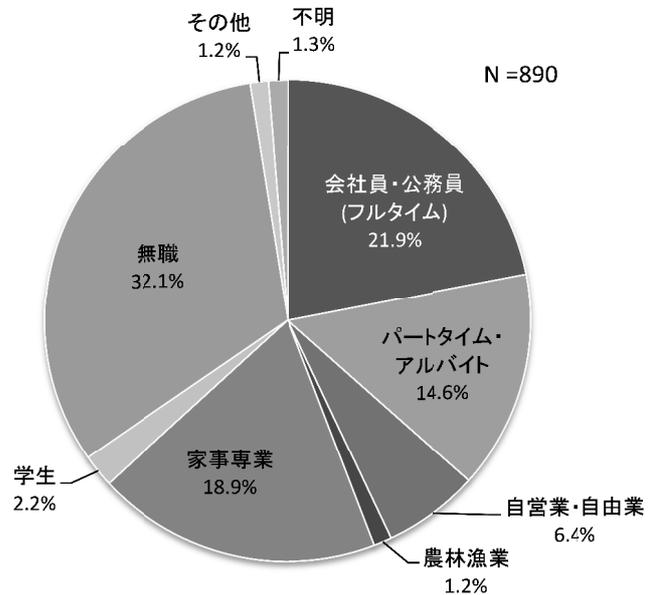
② 年齢

「70歳以上」が33.1%と最も多く、「60歳代」が24.9%、「50歳代」が12.9%となっています。60歳代と70歳以上を合計すると58%と過半数でした。



③ 職業

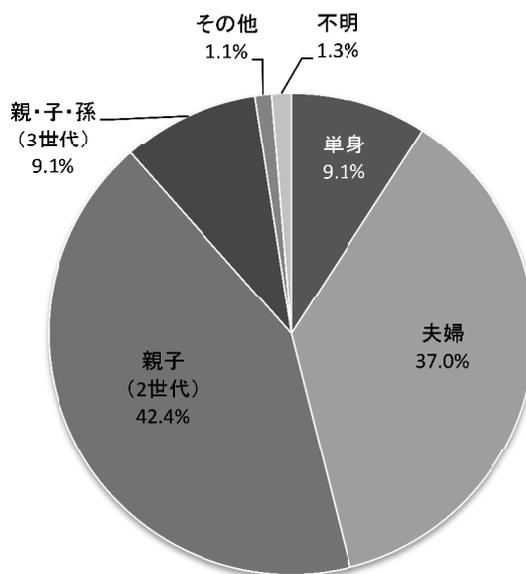
「無職」が32.1%と最も多く、次に「会社員・公務員（フルタイム）」が21.9%、「家事専業」が18.9%となっています。無職が多いのは、アンケート全体として、60歳以上の高齢者の回答が多かったためと考えられます。



④ 世帯構成

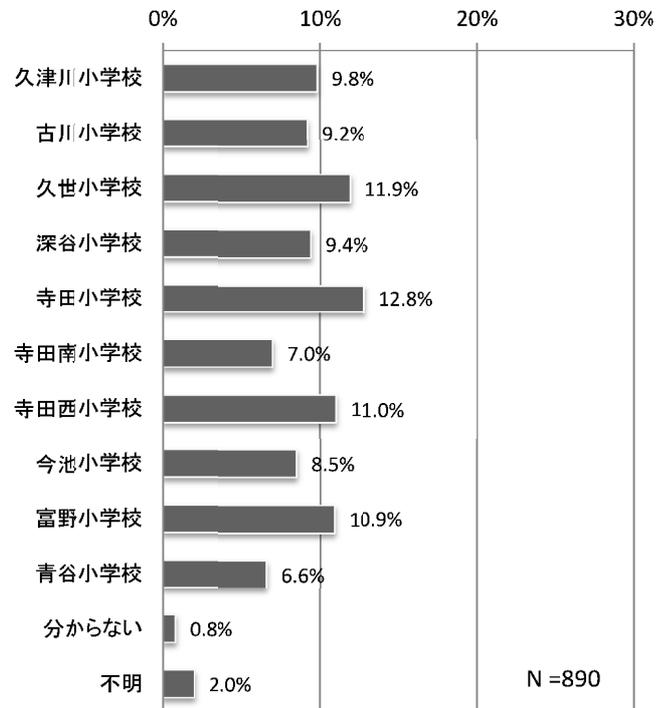
「親子（2世代）」が42.4%と最も多く、次いで「夫婦」が37.0%となっています。

年代別に見ると、50歳代以下では「親子」が多く、60歳代以上では「夫婦」が多くなっていました。



⑤ 住まいの小学校区

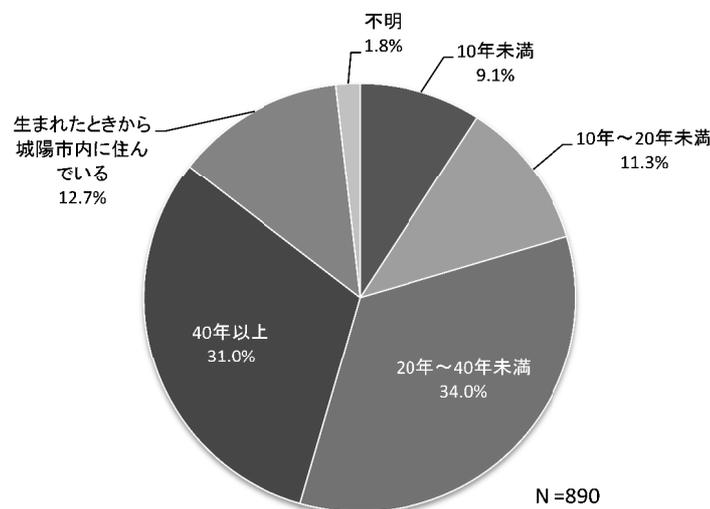
「寺田小学校」が 12.8%と最も多く、次いで「久世小学校」が 11.9%、「寺田西小学校」が 11.0%、「富野小学校」が 10.9%となっています。



⑥ 居住年数

「20年～40年未満」が 34.0%と最も多く、次いで「40年以上」が 31.0%、「生まれたときから城陽市内に住んでいる」が 12.7%となっています。

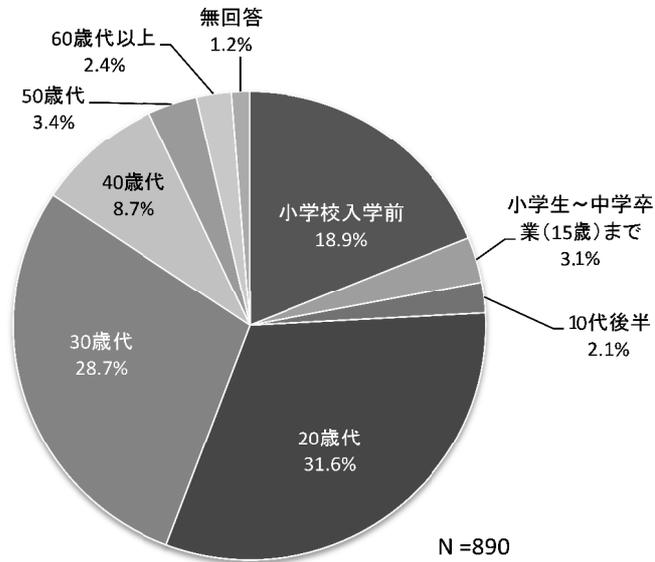
年齢別に見ると、「20歳代以下」と「30歳代」では、「生まれたときから城陽市内に住んでいる」が最も多くなっています。一方、「40歳代」では「10年未満」が、「50歳代」と「60歳代」では「20年～40年未満」が、「70歳以上」では「40年以上」が最も多くなっており、他の自治体から転入されてきた方が多いと見込まれます。



⑦ 城陽市に初めて住み始めた時の年代

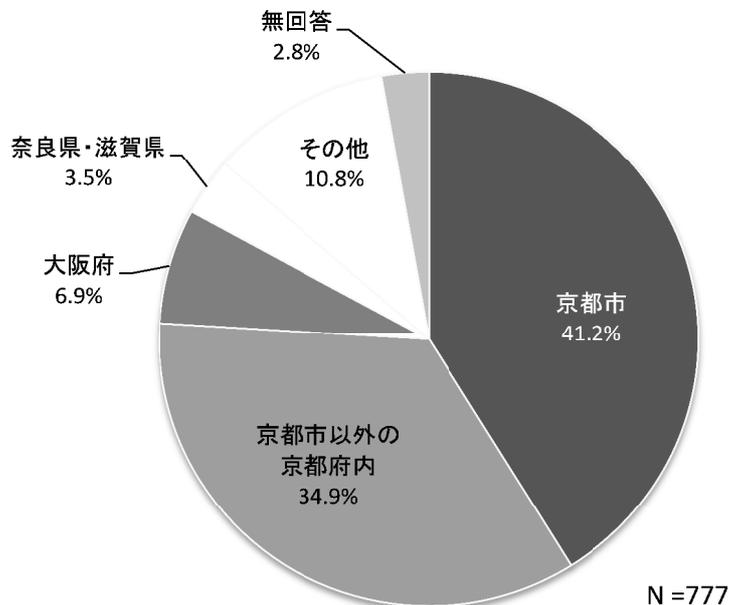
「20 歳代」が 31.6%と最も多く、次いで「30 歳代」が 28.7%となっています。60 歳代以上の方を見ると市の人口が急増した時期（1970 年代～80 年代）に転入した方が多く見られました。

なお、⑥で「生まれたときから城陽市内に住んでいる」を選んだ方は、「小学校入学前」と見なしています。



⑧ 城陽市に住む前は、どこに住んでいましたか

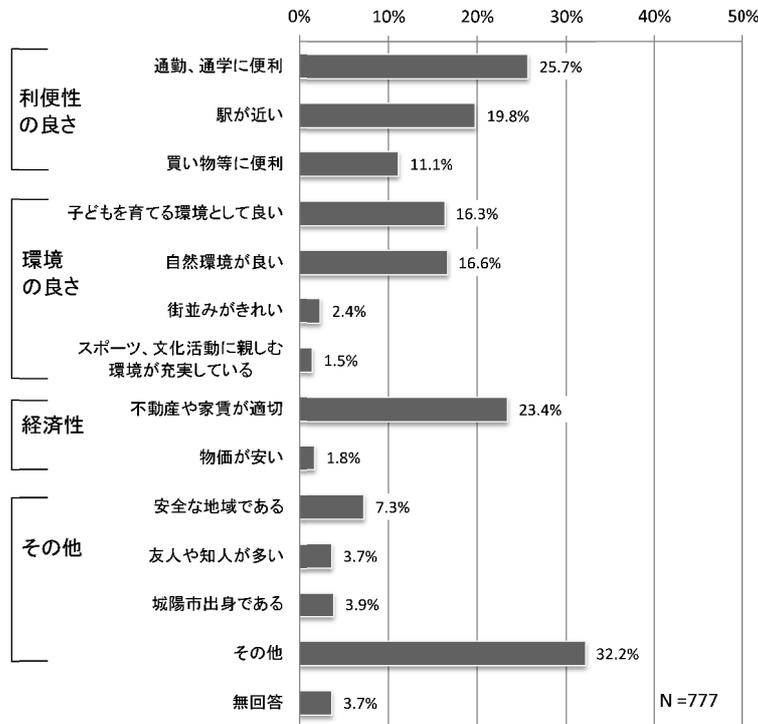
⑥で「生まれたときから城陽市内に住んでいる」以外を選んだ方に、「城陽市に住む前は、どこに住んでいたか」を訪ねたところ、「京都市」が 36.0%と最も多く、次いで「京都市以外の京都府内」が 30.4%となっていました。大阪府、奈良県、兵庫県などはいずれも 10%を下回っており、城陽市に引っ越してきた方の多くは京都府内から転居していました。



⑨ 城陽市に転居した理由に近いもの【あてはまるもの3つ】

「その他」を除くと、「通勤、通学に便利」が25.7%と最も多く、次いで、「不動産や家賃が適切」が23.4%、「駅が近い」が19.8%の順となっています。

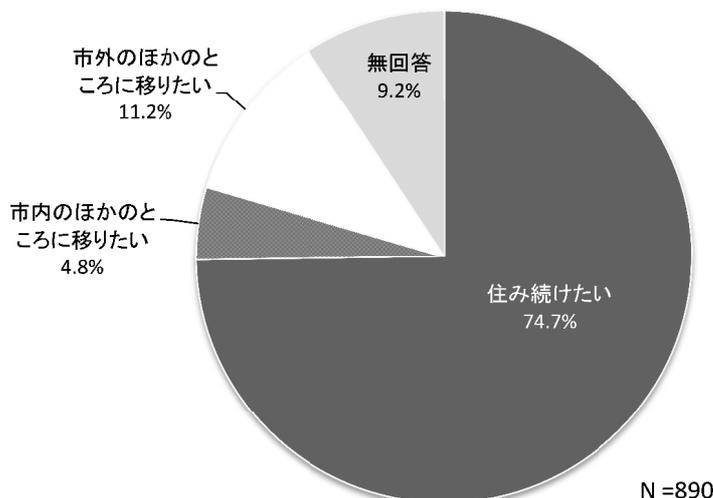
選択肢を数個ずつまとめて「利便性の良さ」「環境の良さ」等に分類して評価したところ、特に高い割合で支持されている項目はありませんでしたが、「利便性の良さ」「環境の良さ」「経済性」がいずれも同様に評価されていました。



⑩ 今後も、現在のお住まいに住み続けたいですか

「住み続けたい」が74.7%と最も多く、次いで「市外のほかのところに移りたい」が11.2%となっています。多くの方は、現在の住まいに住み続けたいという意識を持っています。

年齢別に見ると、「20歳代以下」では、他の年代に比べて、「市内のほかのところに移りたい」「市外のほかのところに移りたい」と回答した割合がやや高くなっていました。



■ 現状の市政に対する評価・今後の要望

問 2-(1) 城陽市の環境に対する取り組みについて、現状の市のはたらきかけに満足していますか。
【1～34 のそれぞれについて、あてはまる番号 1 つに○印】

【全体】

全体的に「4 近隣騒音（ピアノ・空調室外機騒音）対策」「2 工場・事業所による悪臭対策」などの「生活環境」や、「18 公園・緑地の充実等、まちなかの緑の保全」などの「快適環境」については、満足とする割合（「満足している」と「ある程度、満足している」の合計。以下同様。）が比較的高くなっていました。一方、「26 太陽光発電の普及・促進」「27 風力・小水力発電の導入」などの「循環」、「29 環境負荷を減らす技術開発、環境産業の発展」などの「参加」、「34 地球温暖化による気候変動への対策」からなる「地球環境」については、満足とする割合が比較的低くなっていました。

満足とする割合を個々の取組別に見ると、「4 近隣騒音（ピアノ・空調室外機騒音）対策」（50.6%）、「22.家庭のごみの減量やリサイクルの促進」（45.0%）、「2 工場・事業所による悪臭対策」（44.5%）、「18.公園・緑地の充実等、まちなかの緑の保全」（44.4%）、「1 工場・事業所等からの大気」（43.6%）については、比較的満足とする割合が高くなっています。

一方、「27 風力・小水力発電の導入」（8.5%）、「34 地球温暖化による気候変動への対策」（9.4%）、「28 稲わら、間伐材等、未利用バイオマスの活用」（9.5%）、「29 環境負荷を減らす技術開発、環境産業の発展」（11.6%）、「22 公共交通や自転車普及等、自動車利用の削減」（12.7%）、「26 太陽光発電の普及・促進」（12.7%）については、「不満である」又は「やや不満である」とする割合が比較的高くなっています。

【年代別】

年代別によって評価の異なる設問としては、「2 工場・事業所による悪臭対策」「3 生活排水やごみの投棄などによる川の汚れ防止」「4 近隣騒音（ピアノ・空調室外機騒音）対策」「8 ダイオキシン等の有害化学物質対策」「9 ゲリラ豪雨等の気候変動に対応した防災対策」「13 生き物観察会等、生き物とふれあう場の提供」「15 東部丘陵地区の環境再生」「16 地下水の保全」「31 市内の環境に関する情報の公開・発信」「32 環境学習や環境教育の推進」「34 地球温暖化による気候変動への対策」があり、分野としては、「生活環境」が多く、次いで、「自然」「参加」「地球環境」となっていました。

また、「参加」「地球環境」に係る「31 市内の環境に関する情報の公開・発信」「32 環境学習や環境教育の推進」「34 地球温暖化による気候変動への対策」については、学校で近年の環境教育を受ける機会があったと思われる 20 歳代以下（10 歳代と 20 歳代の計）と子どもが学校で環境教育を受ける機会を持っていた可能性の多い 40 歳代が多くなっていました。

問 2-(2) これらの取り組みのうち、市は何に優先して取り組むべきだと思いますか。
城陽市にとって深刻、または重要であり、力を入れて取り組むべきだと思うことをいくつでもお選びください。【1～34 のそれぞれについて、あてはまる番号いくつでも○印】

【全体】

市が優先して取り組むべきことについては、「ゲリラ豪雨等の気候変動に対応した防災対策」が 36.2%と最も多く、次いで「地下水の保全」が 26.6%、「公共交通や自転車普及等、自動車利用の削減」が 22.5%、「森林等の緑の保全」が 21.0%、「ごみの不法投棄対策」が 21.0%となっています。

なお、「ゲリラ豪雨等の気候変動に対応した防災対策」が最も多かったのは、2012 年 8 月の集中豪雨で城陽市内でも浸水被害などがあった記憶が新しいからだと考えられます。また、「地下水の保全」については、城陽市の水道水のおいしさを多くの市民が感じているからだと思われます。また、「自動車利用の削減」については、市内に狭隘な道路が多く、交通対策に取り組むべきと考える市民が多いことの表れであると考えられます。

【年代別】

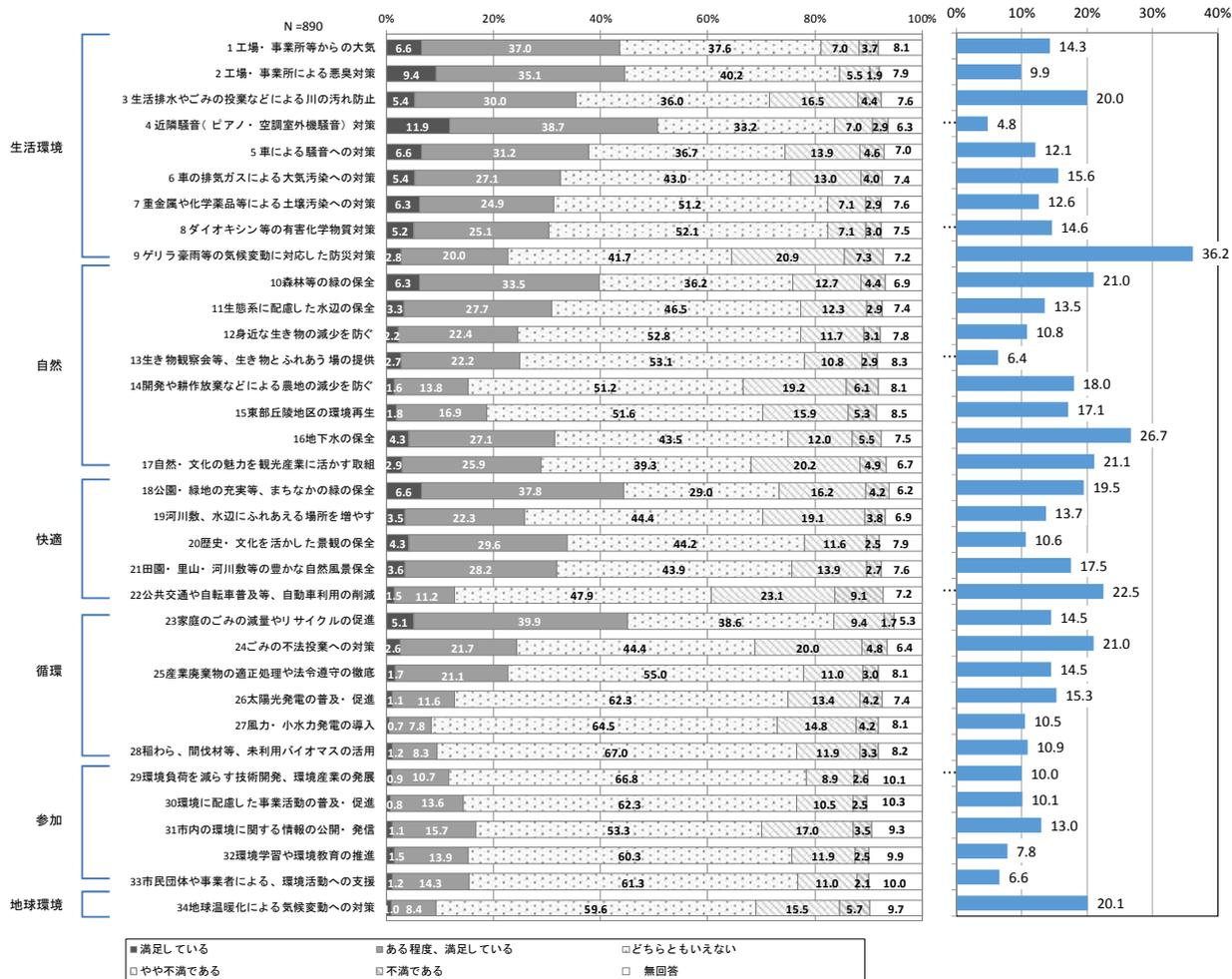
全ての年代において、「ゲリラ豪雨等の気候変動に対応した防災対策」が最も多く、40 歳代を除く年代では、「地下水の保全」が 2 番目に多い結果でした。なお、40 歳代では、「公園・緑地の充実等まちなかの緑の保全」「ごみの不法投棄への対策」が共に 24.5%で 2 番目となっていました。

「東部丘陵地区の環境再生」は 50 歳代が 18.3%、60 歳代が 18.5%、70 歳以上が 21.4%と、それ以下の年代に比べて割合が高くなっていました。「田園・里山・河川敷等の豊かな自然風景保全」も 50 歳代が 16.5%、60 歳代が 17.6%、70 歳以上が 24.4%と、それ以下の年代に比べて割合が高くなっていました。「ごみの不法投棄への対策」は、20 歳代以下が 27.1%であり、他の年代に比べて割合が高くなっていました。

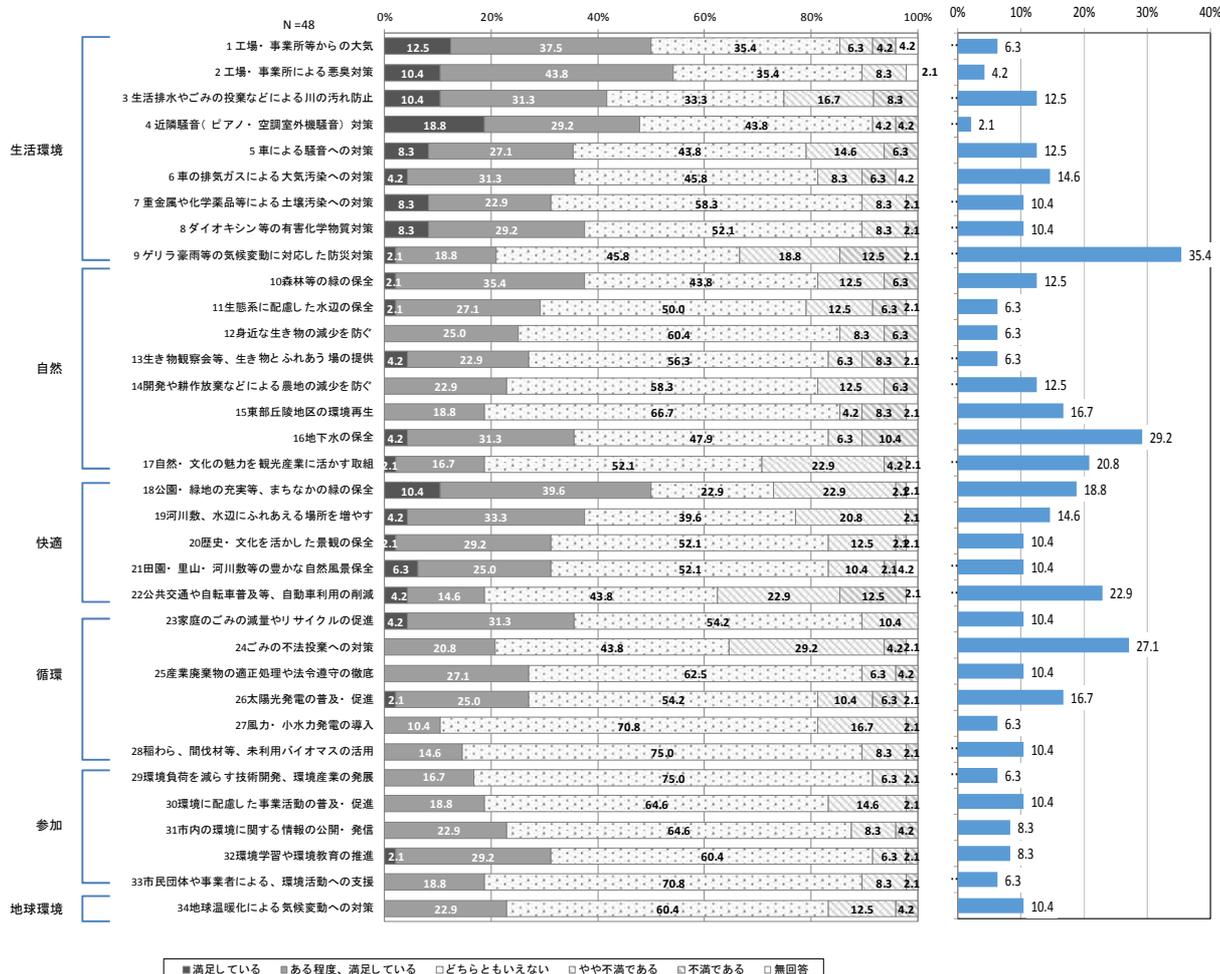
城陽市の環境に対する取り組みについて満足しているか

市が優先的に取り組むべきこと

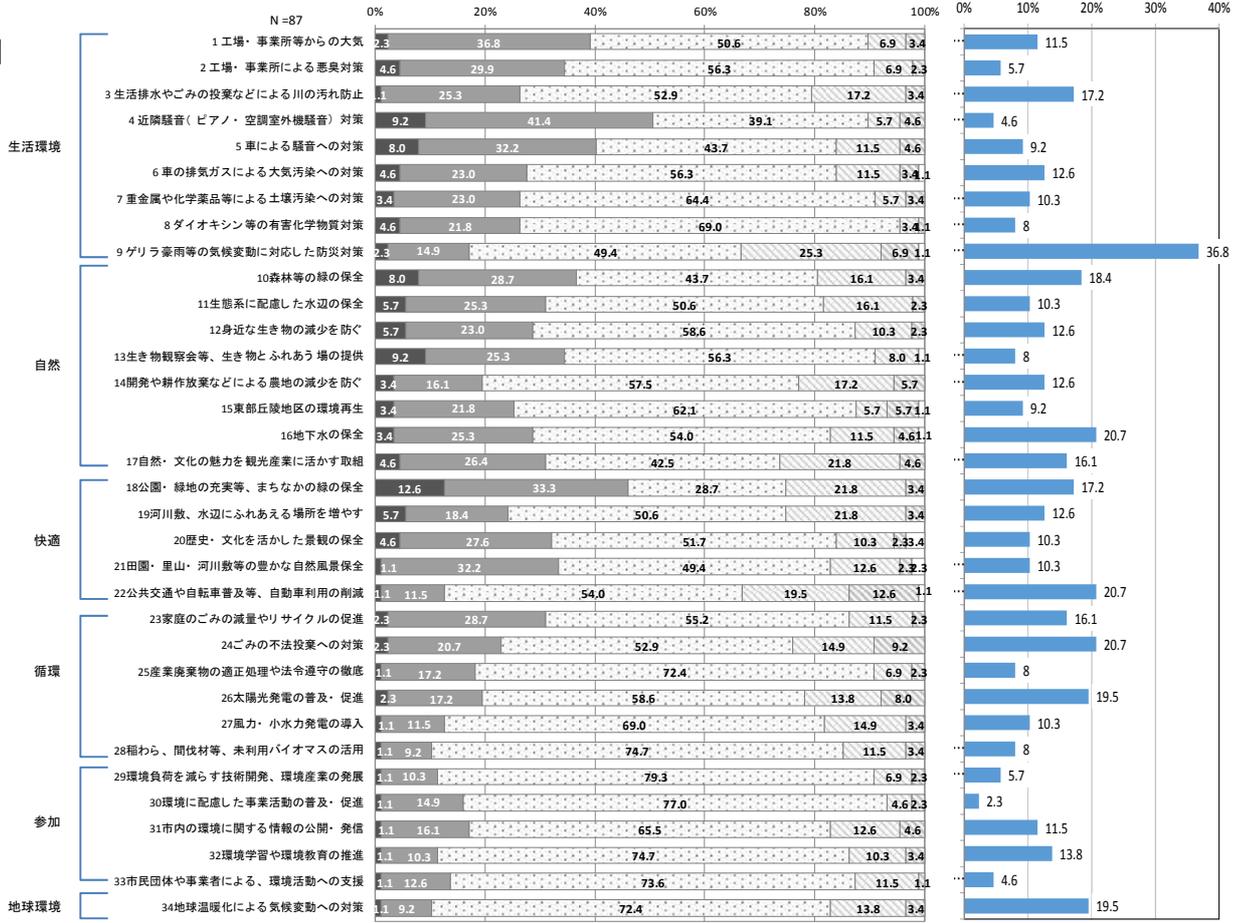
【全体】



【20歳代以下】

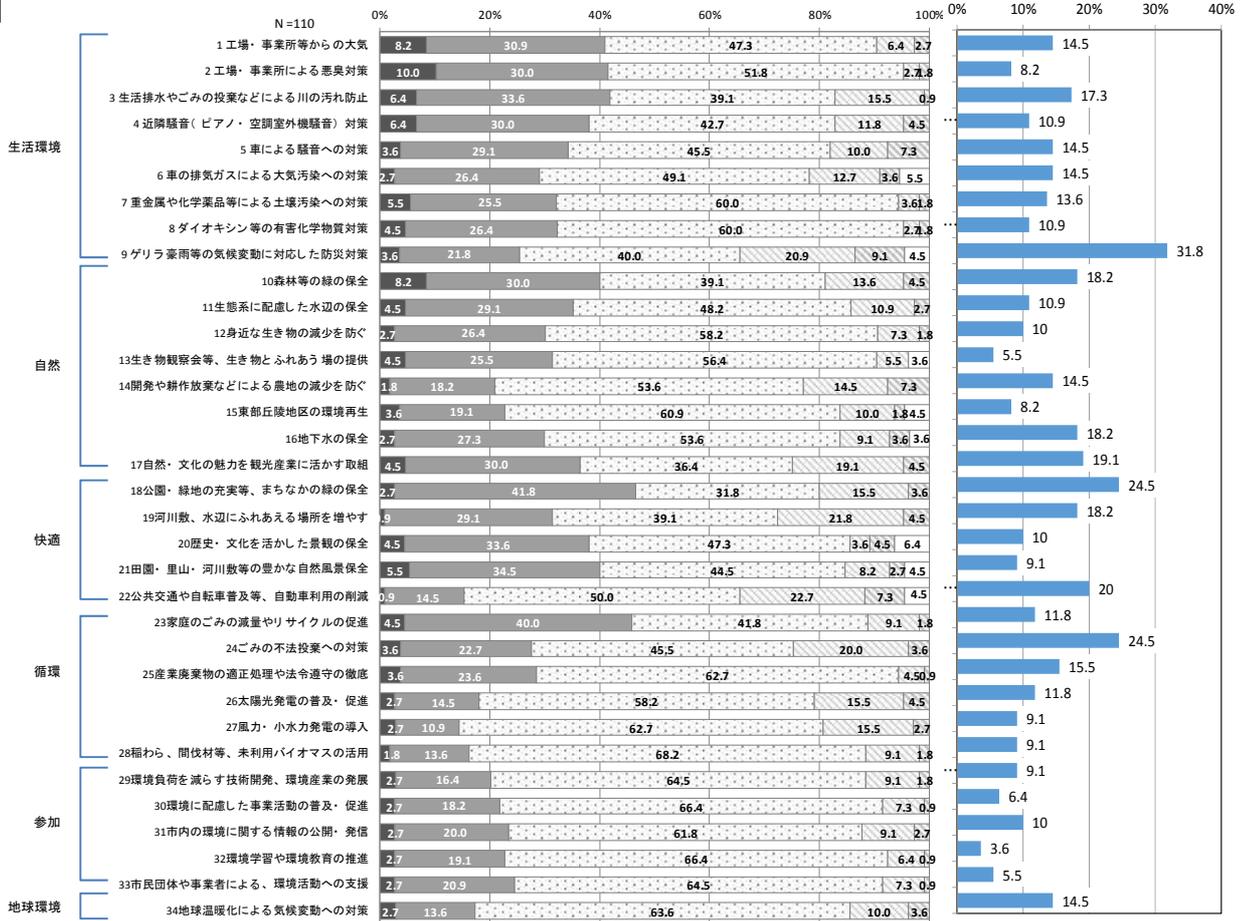


[30 歳代]



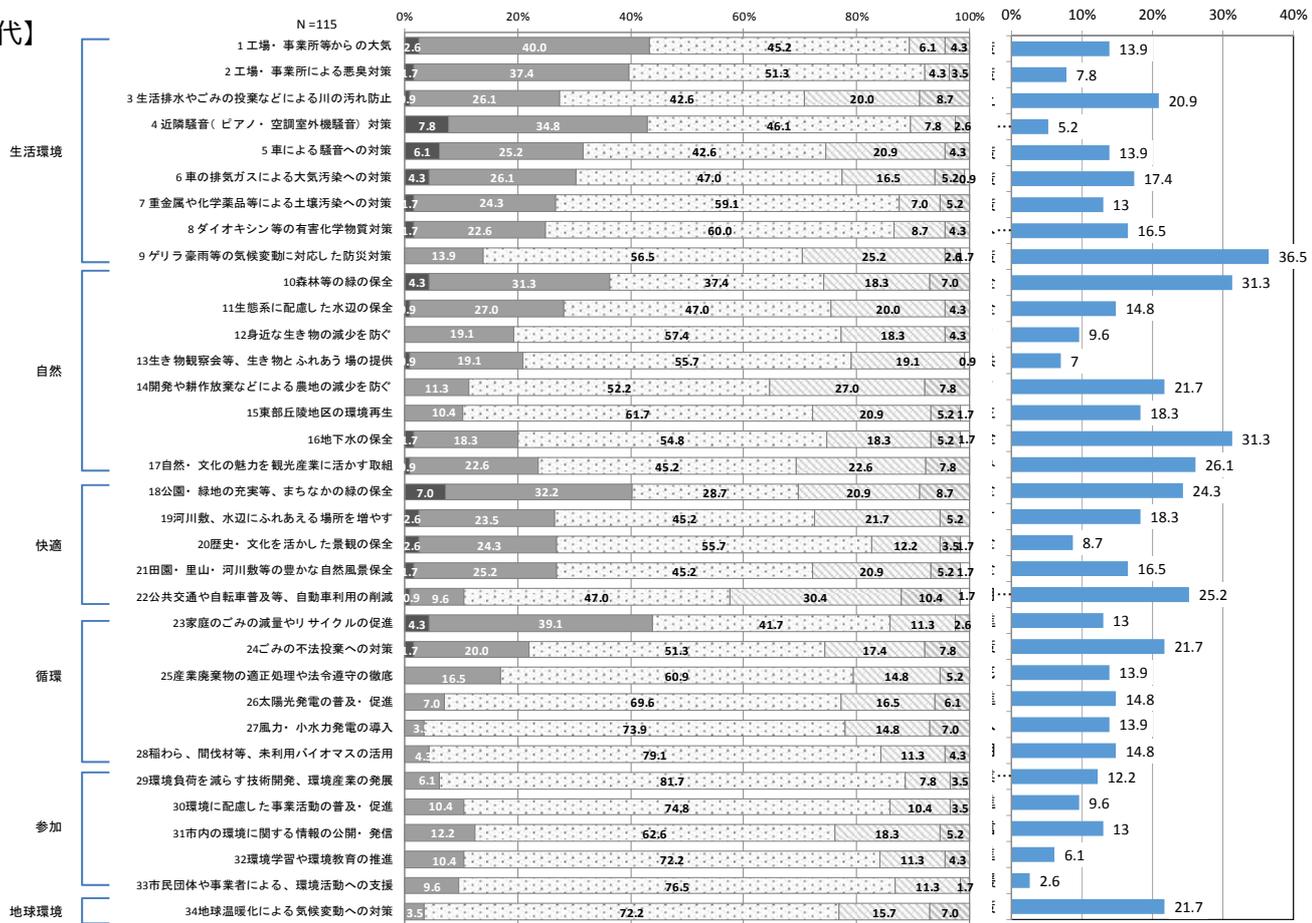
■満足している ■ある程度満足している □どちらともいえない □やや不満である □不満である □無回答

[40 歳代]

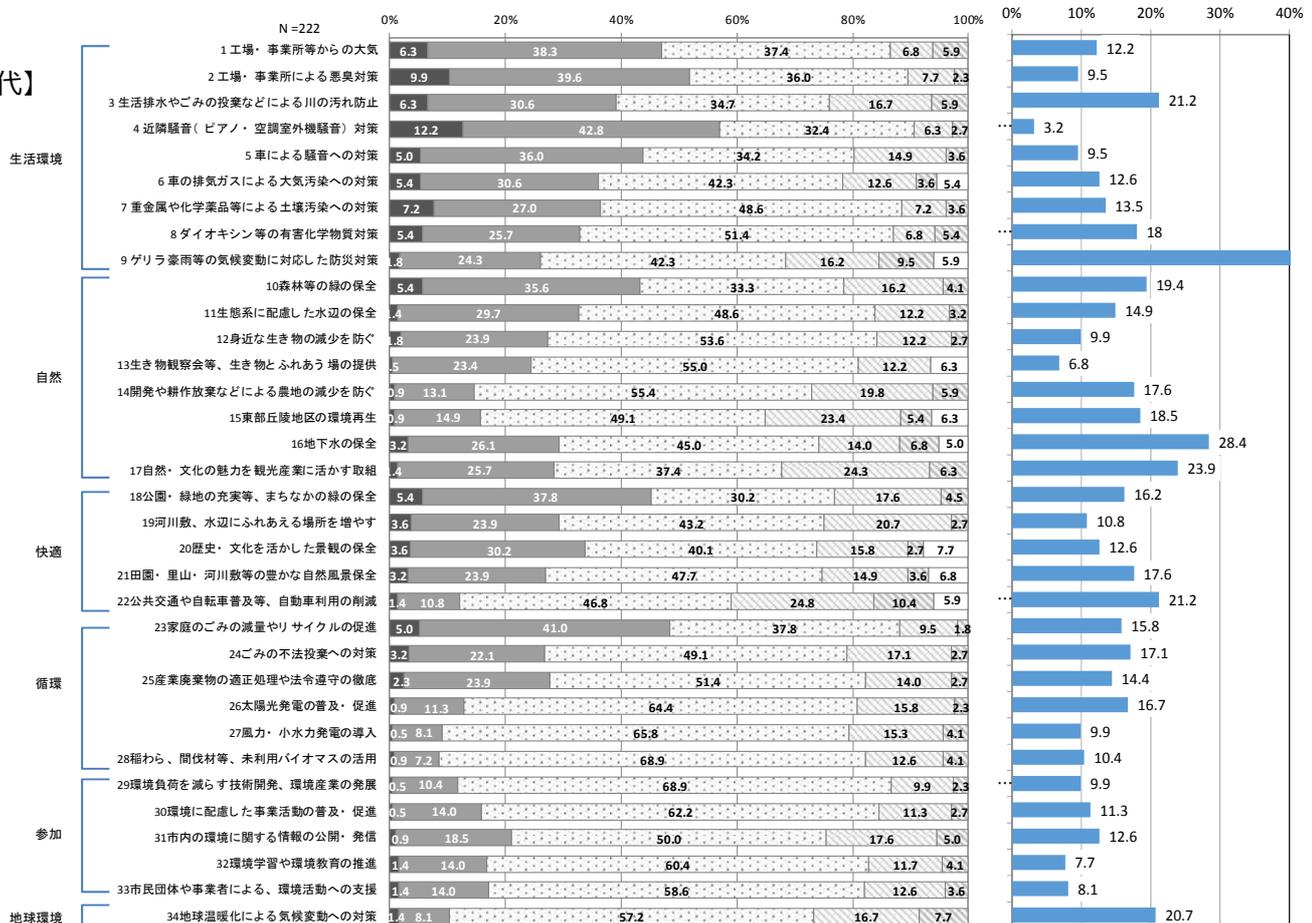


■満足している ■ある程度満足している □どちらともいえない □やや不満である □不満である □無回答

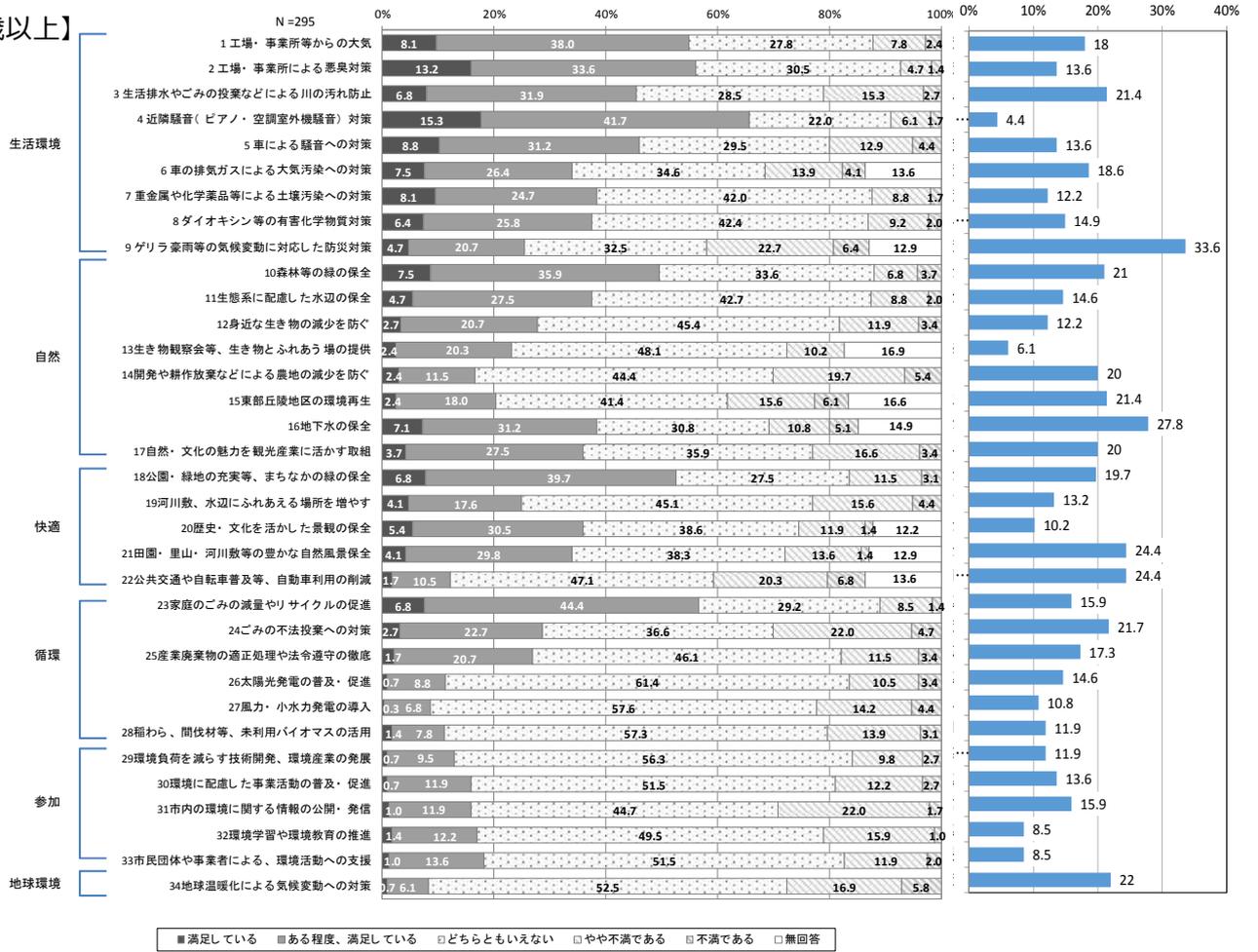
【50 歳代】



【60 歳代】



【70歳以上】



■ 住まい周辺環境の評価

問3 お住まいの地域の環境について、どの程度、満足していますか。(あてはまる番号1つに○印)

【全体】

全体的に、「水や空気」については満足とする割合（「満足している」と「ある程度、満足している」の合計）が比較的高くなっていましたが、「自然とのふれあい」「町並みや景観」については満足とする割合が比較的低くなっていました。

地域の環境について、満足とする割合を個々の項目別に見ると、「4 近隣騒音（ピアノ・空調室外機騒音）対策」（50.6%）、「22.家庭のごみの減量やリサイクルの促進」（45.0%）、「2 工場・事業所による悪臭対策」（44.5%）、「18.公園・緑地の充実等、まちなかの緑の保全」（44.4%）、「1 工場・事業所等からの大気」（43.6%）については、満足とする割合が比較的高くなっています。

一方、「27 風力・小水力発電の導入」（8.5%）、「34 地球温暖化による気候変動への対策」（9.4%）、「28 稲わら、間伐材等、未利用バイオマスの活用」（9.5%）、「29 環境負荷を減らす技術開発、環境産業の発展」（11.6%）、「22 公共交通や自転車普及等、自動車利用の削減」（12.7%）、「26 太陽光発電の普及・促進」（12.7%）については、「不満である」又は「やや不満である」とする割合が比較的高くなっています。

「満足している」と「ある程度、満足している」を合わせた回答は「空気のきれいさ」の 72.3% が最も多く、次いで「まちの静かさ」が 71.1%、「飲み水のおいしさ」が 65.8%となっています。城陽市の水道は地下水が多く含まれているためか、空気や静けさに加え、飲み水が含まれていることが特徴的です。

「不満である」と「やや不満である」を合わせた回答は「自転車による交通の快適さ」の 52.0% が最も多く、次いで「歩行者街路の快適さ」が 49.1%、「広場や公園との親しみ」が 26.4%となっています。こうした点は、市内に狭隘な道路などが多いことが原因とみられます。

【地域別】

地域別に見ると「水や空気」「町並みや景観」は深谷小学校区で満足とする割合（「満足している」と「ある程度、満足している」の合計）が比較的多い傾向にありました。また、「自然とのふれあい」については、青谷小学校区が、他に比べると満足とする割合が日帷幄的高くなっていました。

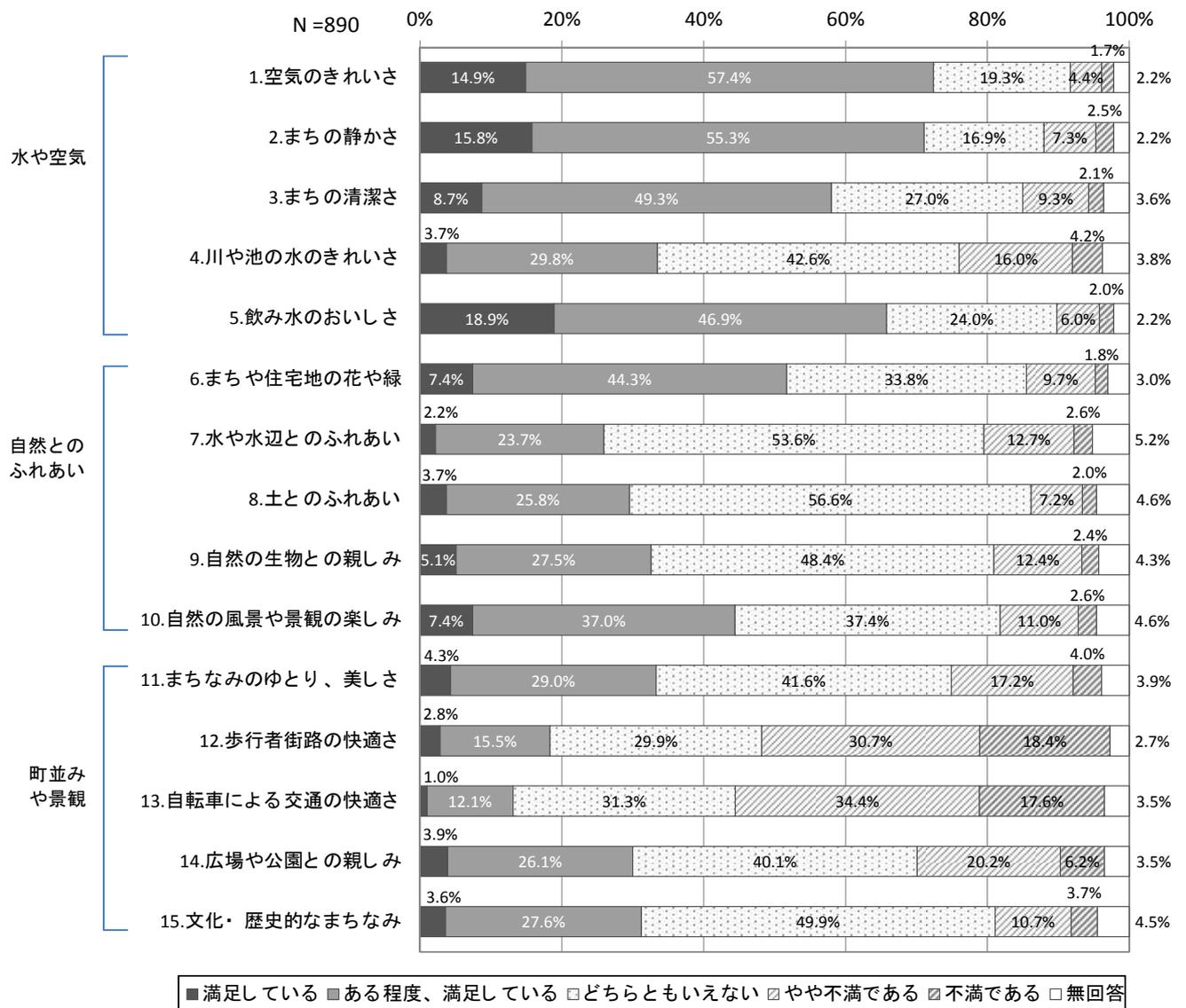
また、いずれの地域においても、「空気のきれいさ」「まちの静かさ」「飲み水のおいしさ」が他の項目に比べると、満足とする割合が比較的高くなっていました。

一方、古川小学校区では、「13.自転車による交通の快適さ」「14.広場や公園との親しみ」など、主に「まちなみや景観」に関する項目と、「4.川や池の水のきれいさ」の満足度が他の地域に比べて低くなっていました。

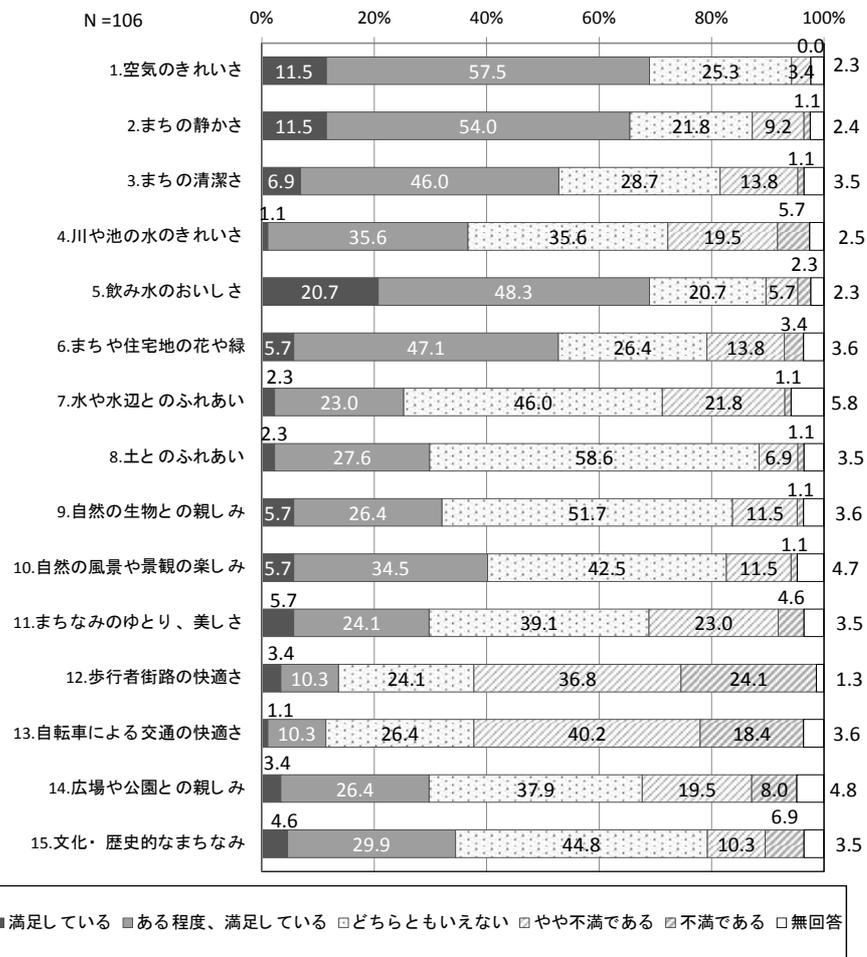
【前回との比較】

今回の調査結果で満足とする割合を、平成 12 年度に実施したアンケート調査の結果（以下、前回調査と記載）の割合と比較しました。前回調査は「満足」「不満足」「どちらともいえない」の3段階であり、今回の調査方法（5段階評価）とは異なるので一律に比較することはできないものの、「1. 空気のきれいさ」「2. まちの静かさ」「3. まちの清潔さ」「4. 川や池の水のきれいさ」「6. まちや住宅地の花や緑」「11. まちなみのゆとり、美しさ」については、前回よりも10ポイント以上、評価が上がっていました。一方、「8. 土とのふれあい」「9. 自然の生物との親しみ」については、前回よりもやや評価が下がっていました。

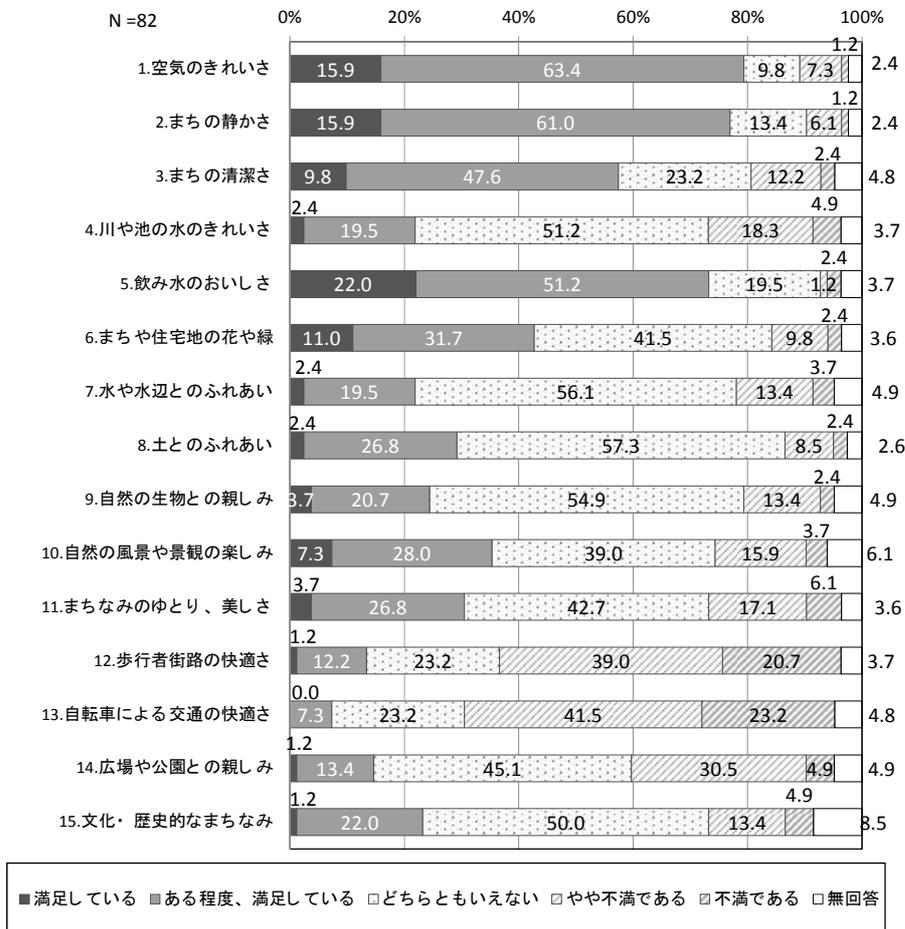
【全体】



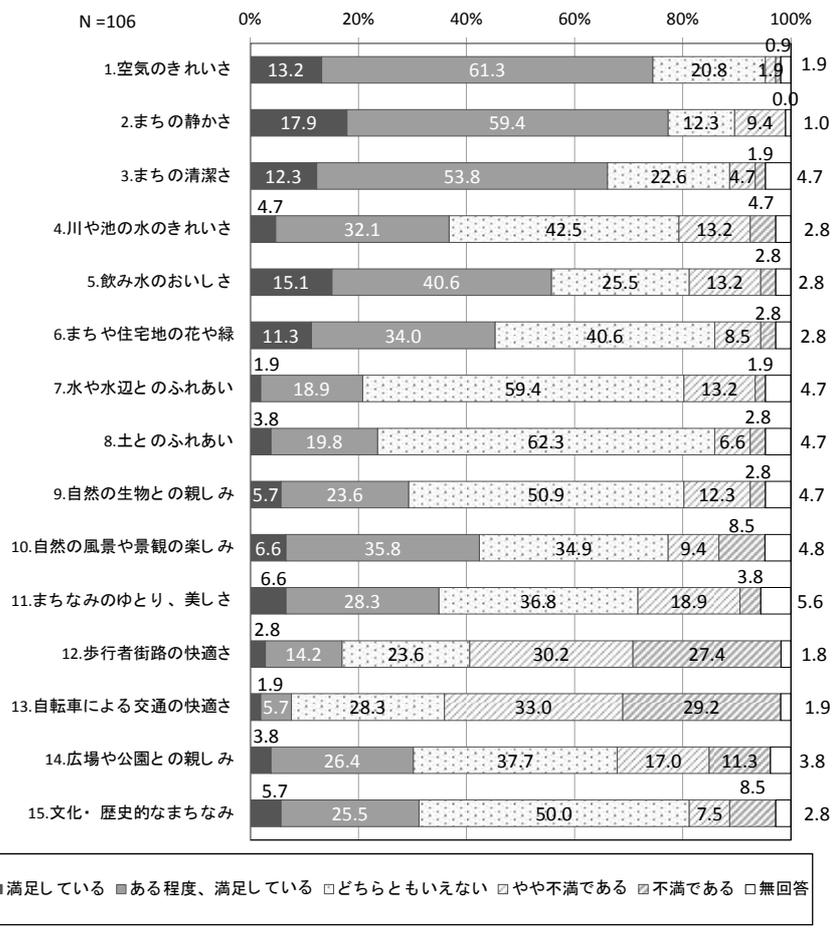
【久津川小学校】



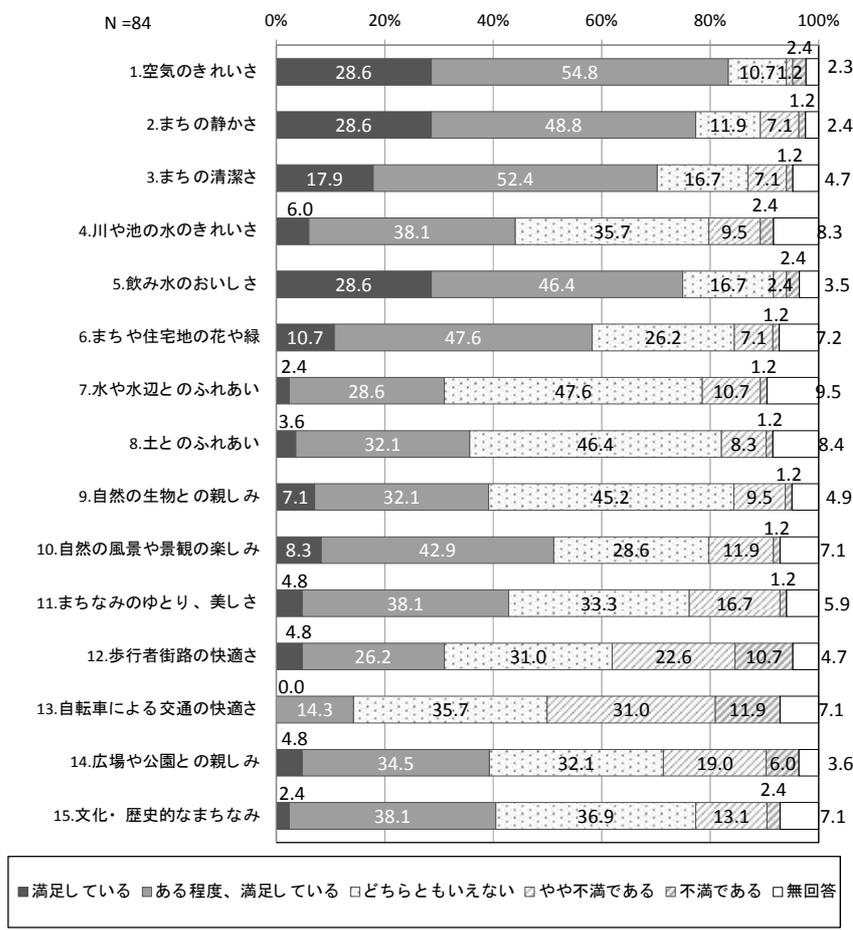
【古川小学校】



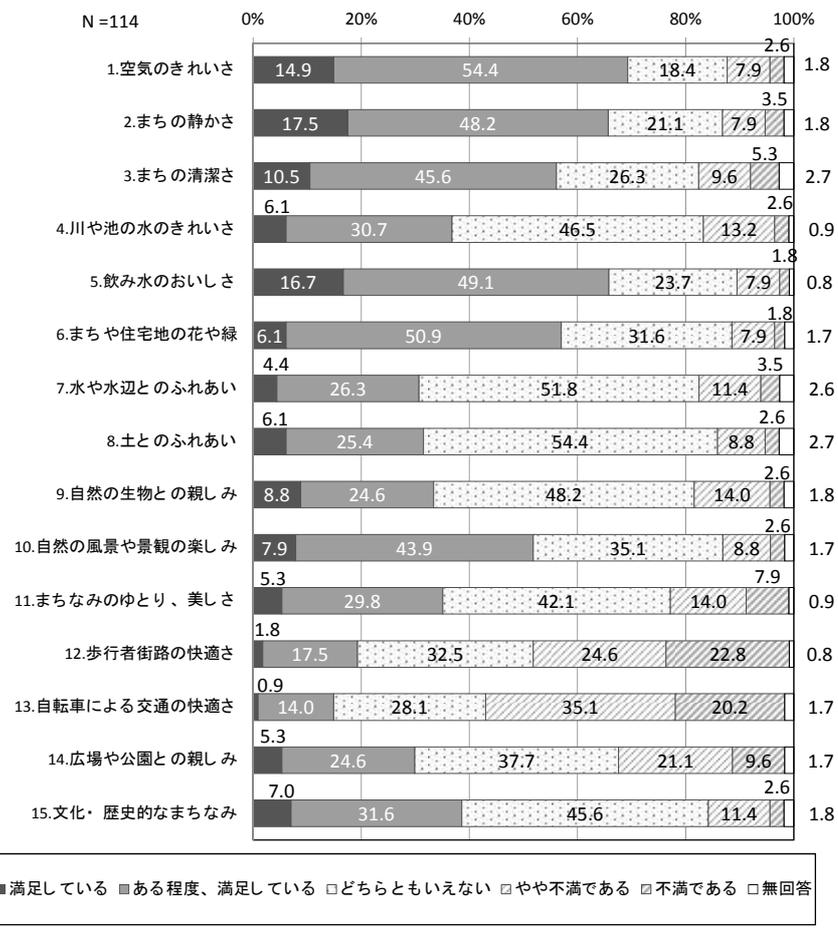
【久世小学校】



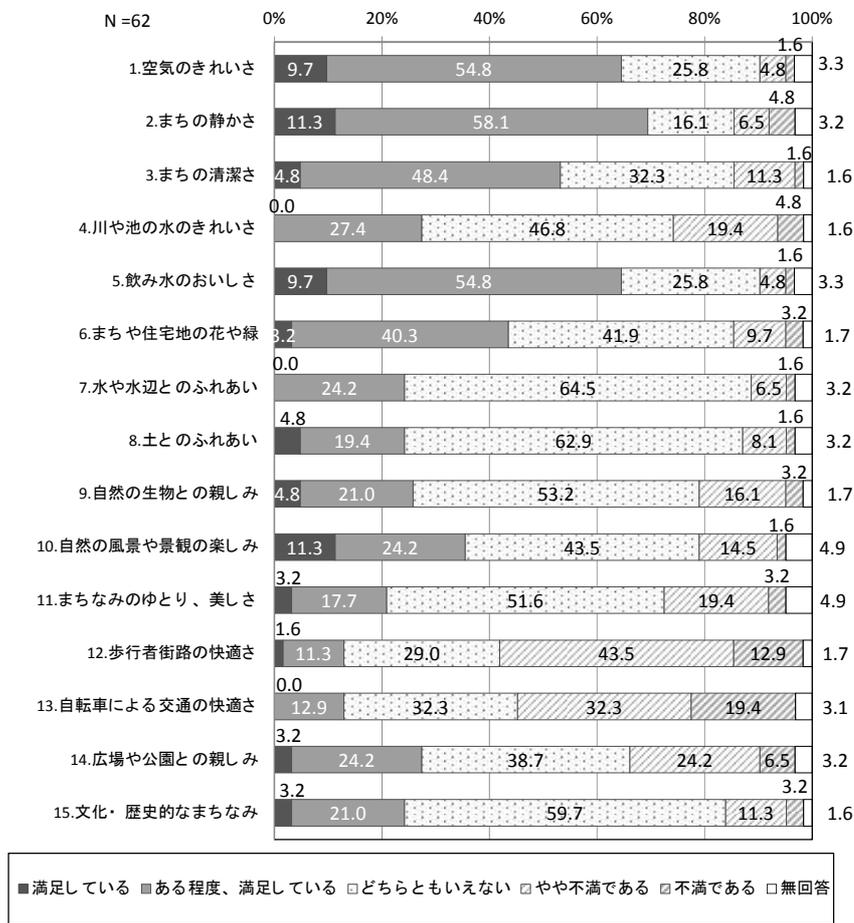
【深谷小学校】



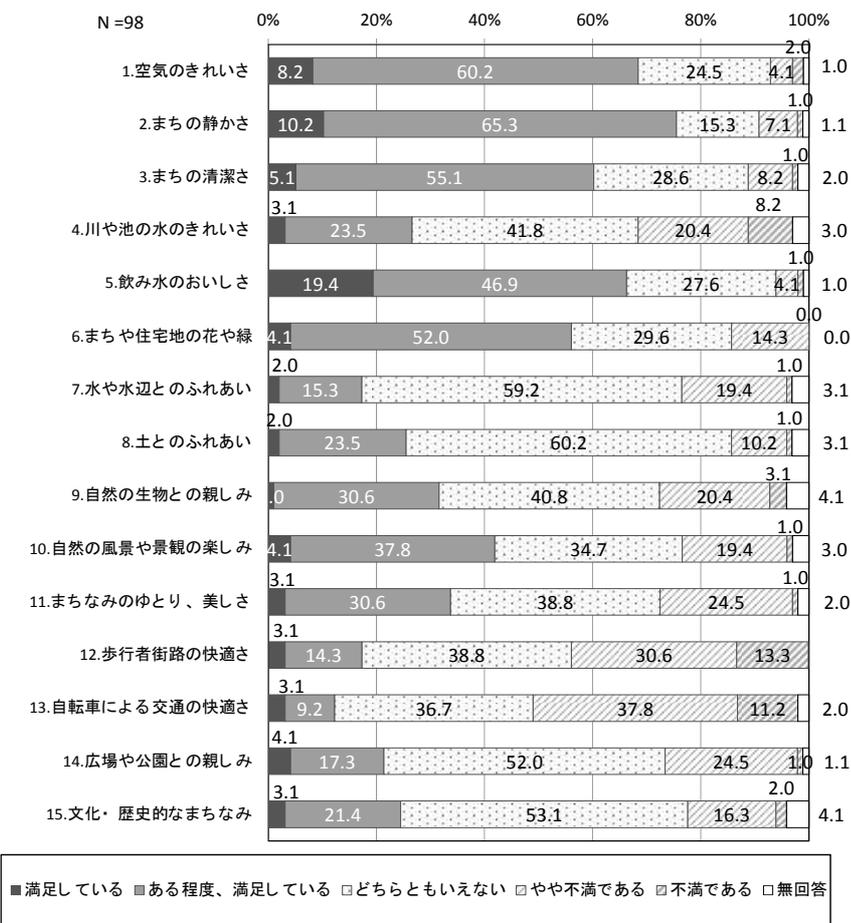
【寺田小学校】



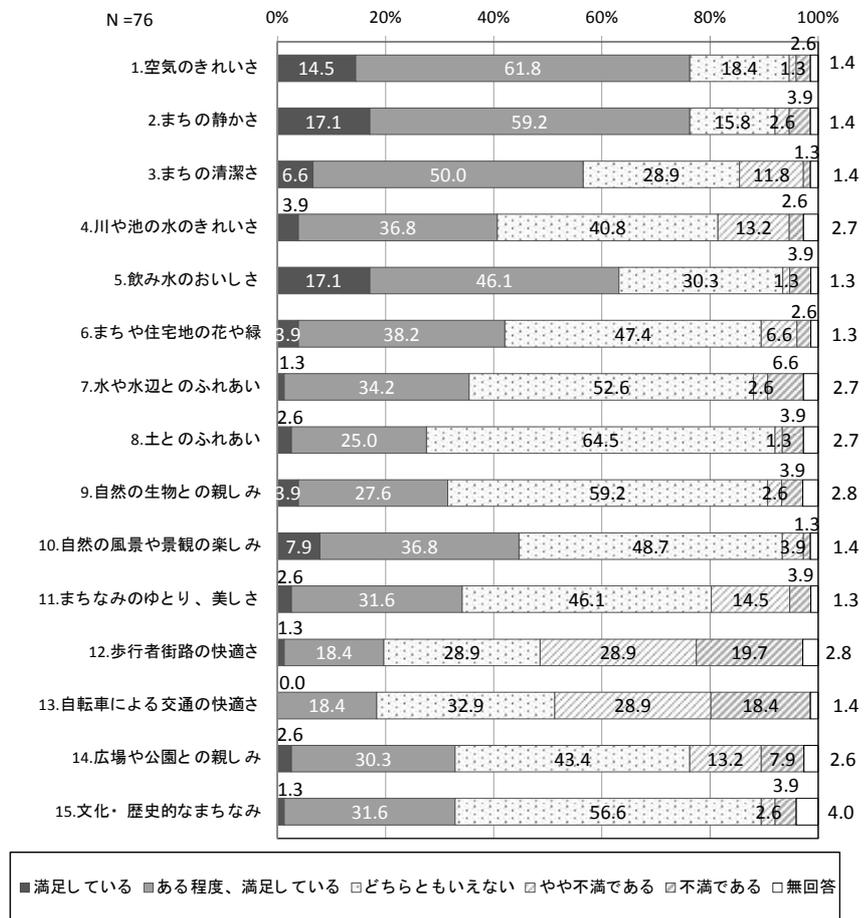
【寺田南小学校】



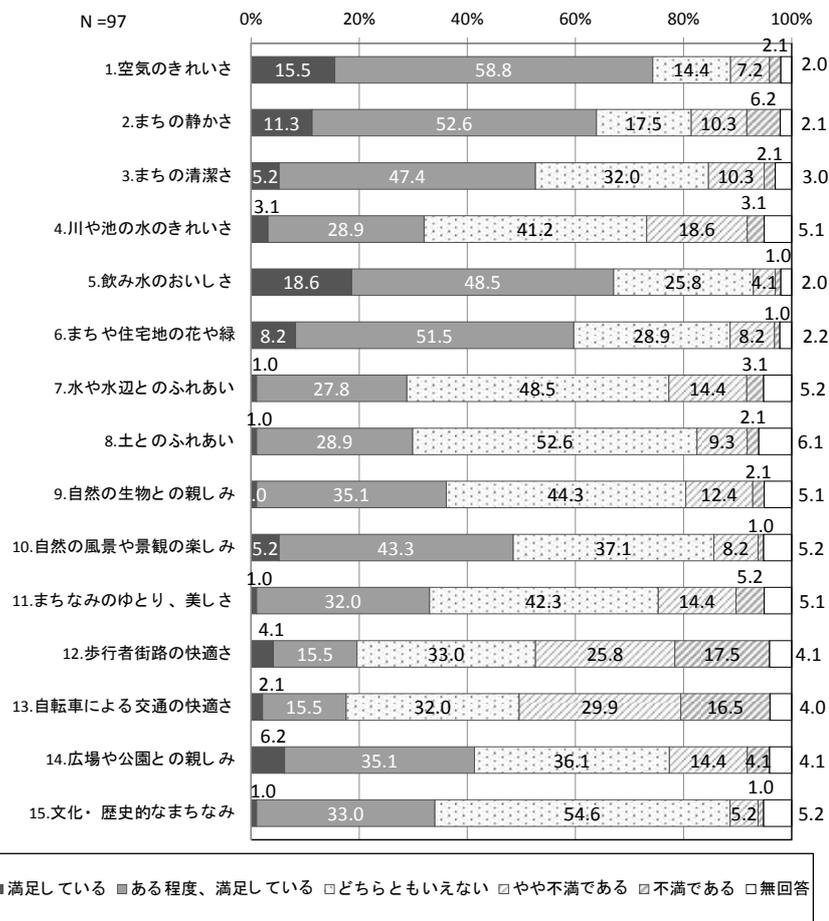
【寺田西小学校】



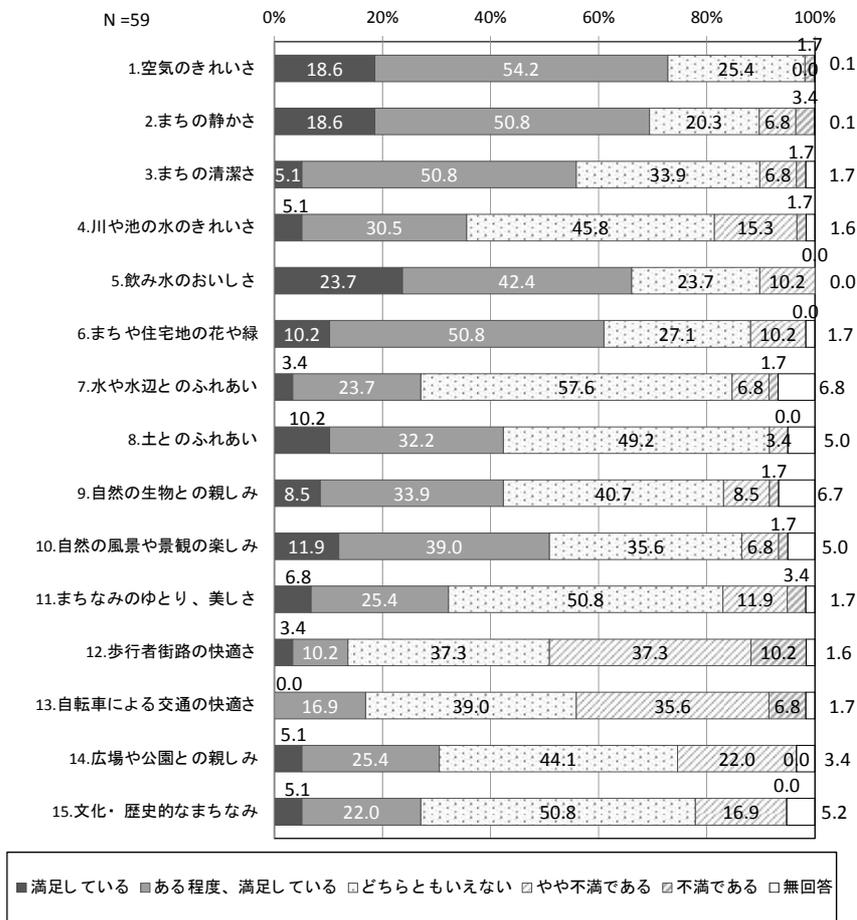
【今池小学校】



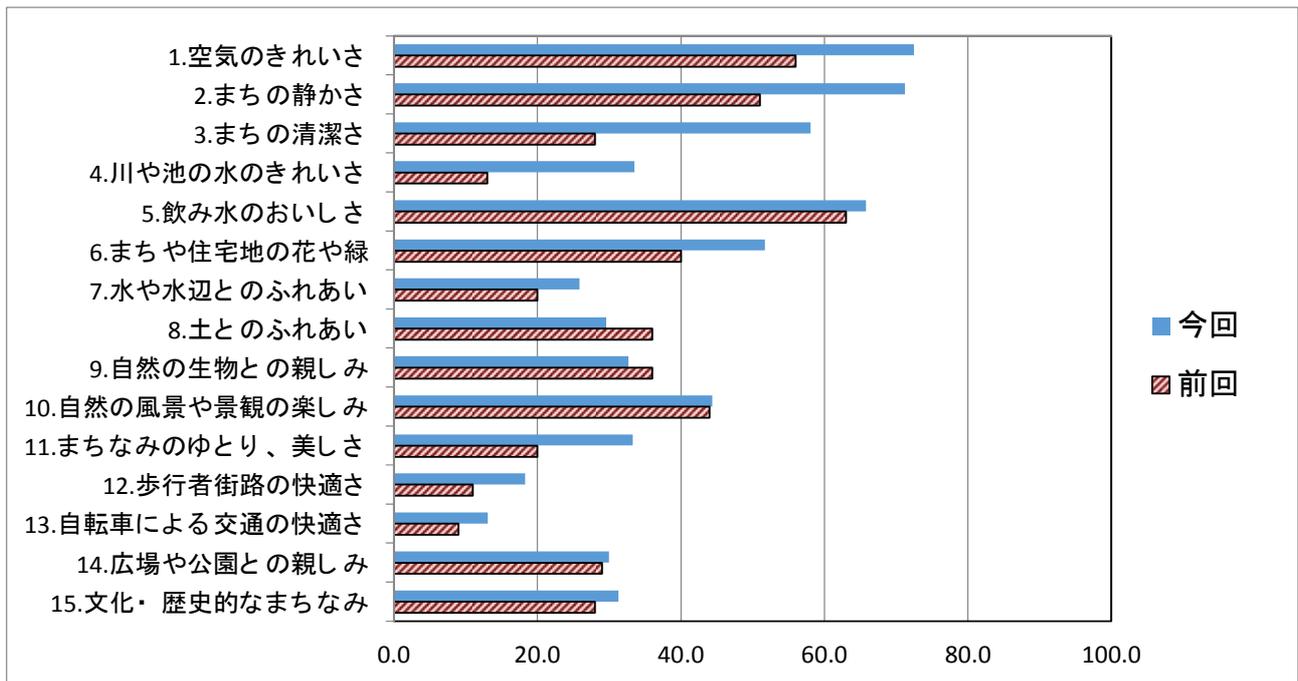
【富野小学校】



【青谷小学校】



【前回との比較】



■ 環境問題・市のまちづくりに対する認知度・関心度

問 4 私たちを取り巻く環境においては、下記の1～4のような問題が話題となっています。また、城陽市では下記の①～③の新たなまちづくりに係る事業を進めています。これらの問題や事業をご存知でしたか。またこのような問題や事業に関心がありますか。

【1～4また①～③の取り組みごとに、「認知度」「関心度」それぞれについて、当てはまる番号を1つずつ〇印】

【全体】

環境問題についての認知度（「知っている」と回答した割合）、関心度（「関心がある」と回答した割合）が高いのは、ニュース等で取り上げられることの多い「地球温暖化に伴う気候変動」（認知度 86.1%、関心度 81.6%）、「PM2.5による大気汚染」（同 83.2%、82.0%）であり、他の「再生可能エネルギー」や「生物多様性」については、認知度、関心度ともに比較的低くなっていました。

市のまちづくりに係る事業で認知度、関心度が高いのは、大規模な開発事業である「新名神高速道路事業」（認知度 87.5%、関心度 72.6%）でした。事業の実施範囲が限定される「久世荒内・寺田塚本地区土地区画整理事業」や「東部丘陵地整備事業」は、認知度、関心度ともに比較的低くなっていました。

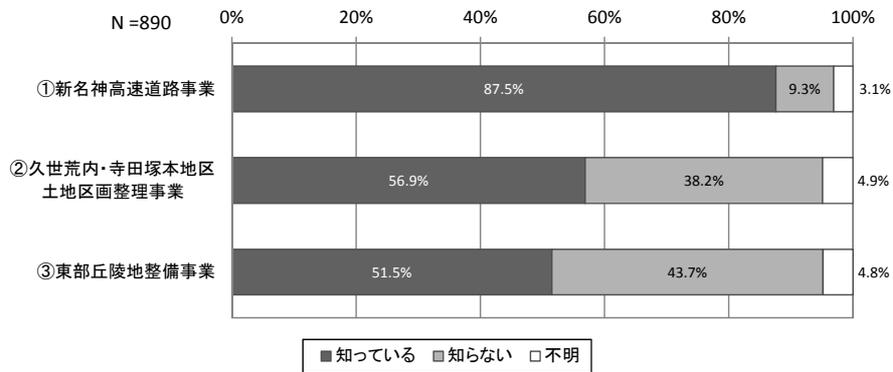
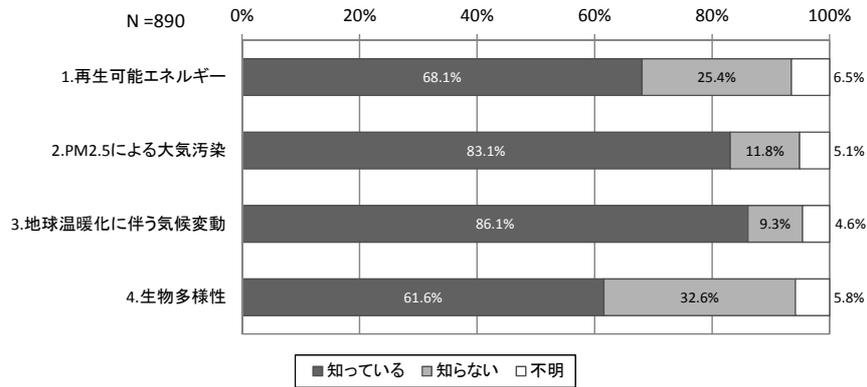
なお、認知度に比べて、関心度が高い項目については、その情報提供や周知徹底が不十分であることが考えられます。今回の選択肢では、「再生可能エネルギー」、「東部丘陵地整備事業」が該当しますが、両者の差が5ポイントを超える「東部丘陵地整備事業」については、今後も情報提供等を進める必要があると思われます。

【地域別】

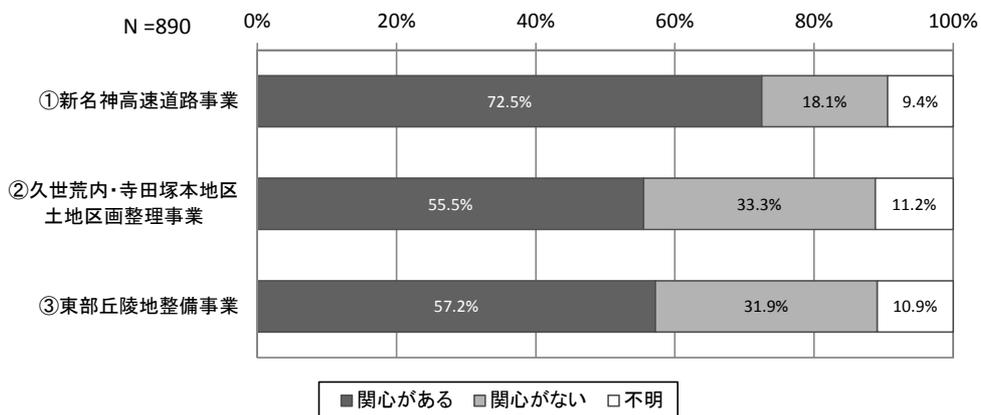
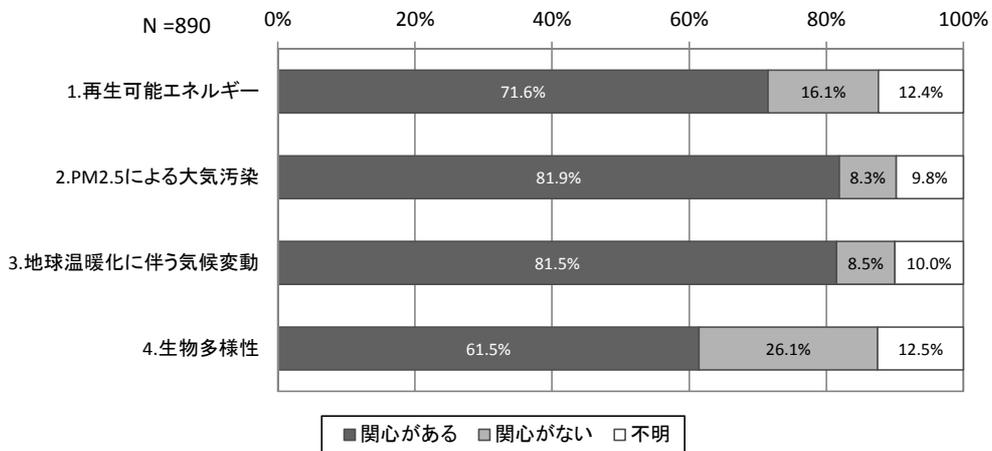
認知度（「知っている」と回答した割合）、関心度（「関心がある」と回答した割合）を地域別に見ると、環境問題についての認知度、関心度はそれほど違いがありませんでした。一方、市の事業に関する項目について、「久世荒内・寺田塚本地区土地区画整理事業」は、古川小学校区、寺田西小学校区、青谷小学校区で比較的認知度、関心度が高くなっていました。また、「東部丘陵地整備事業」については、青谷小学校区で比較的認知度、関心度が高くなっていました。

【全体】

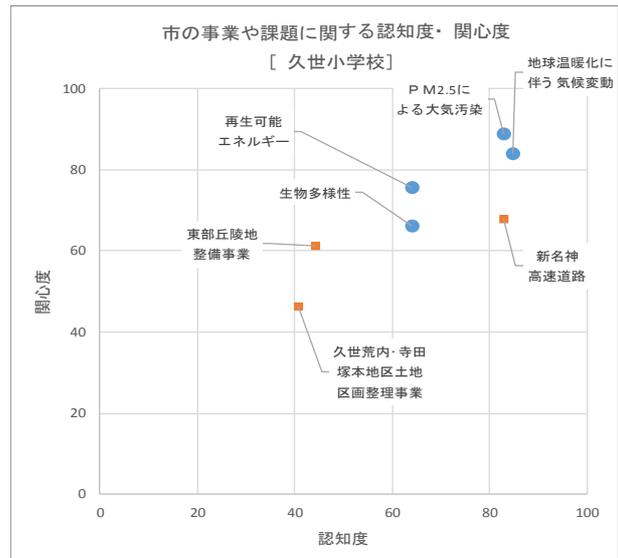
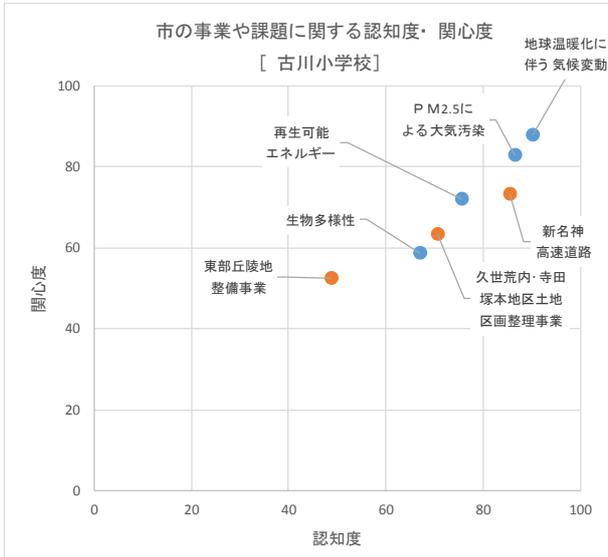
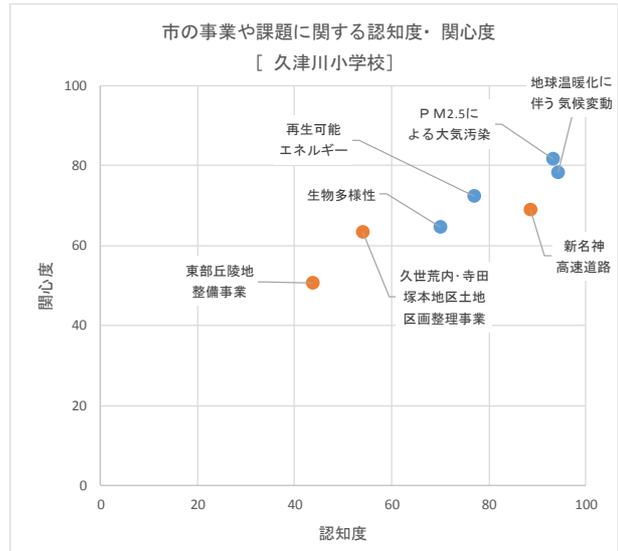
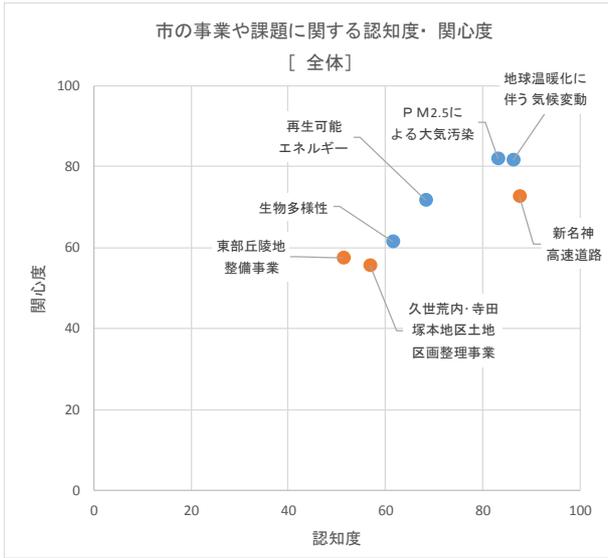
◎ 認知度

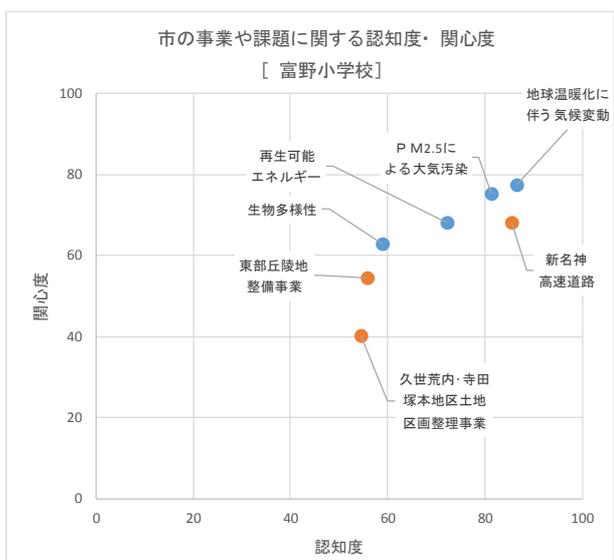
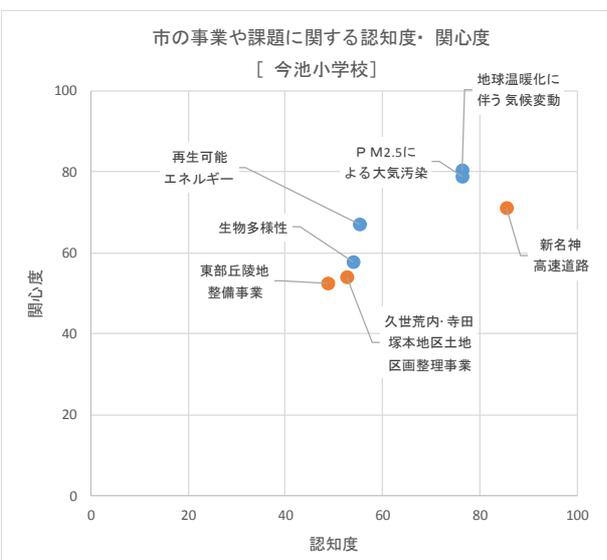
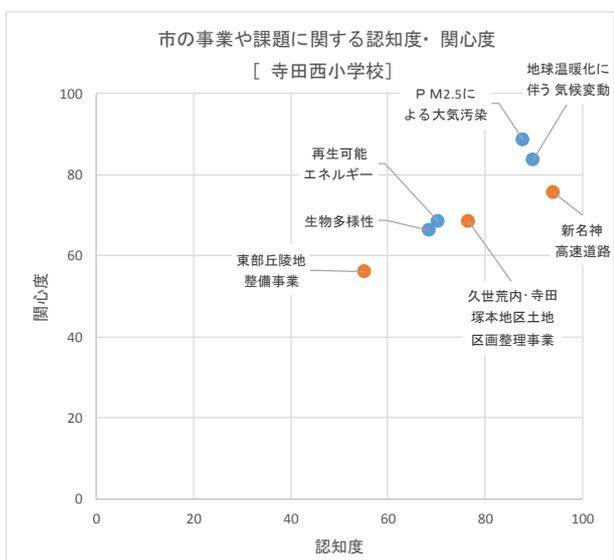
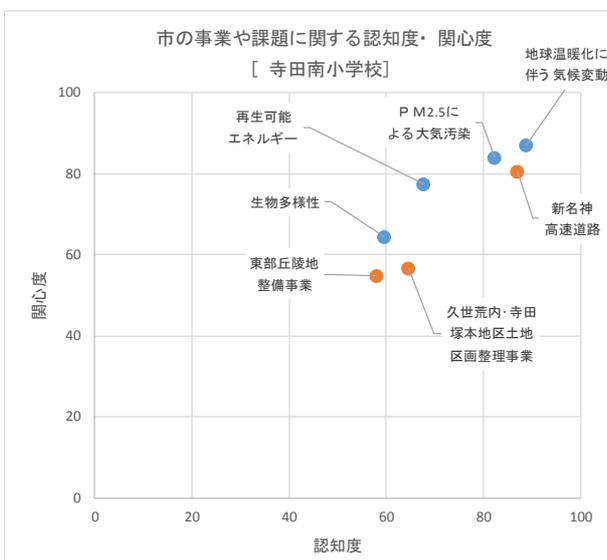
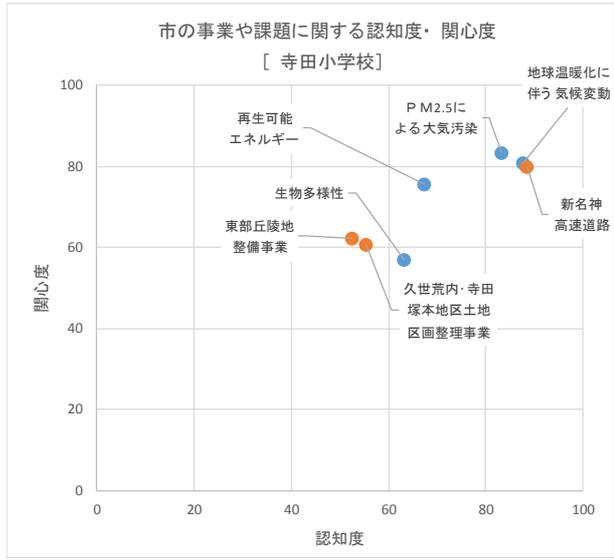
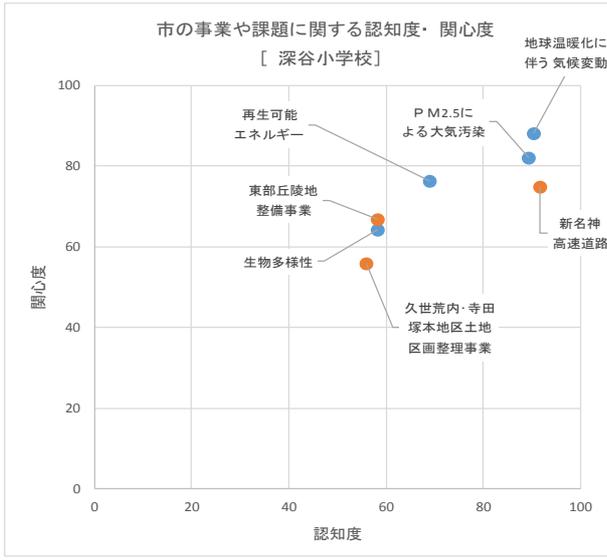


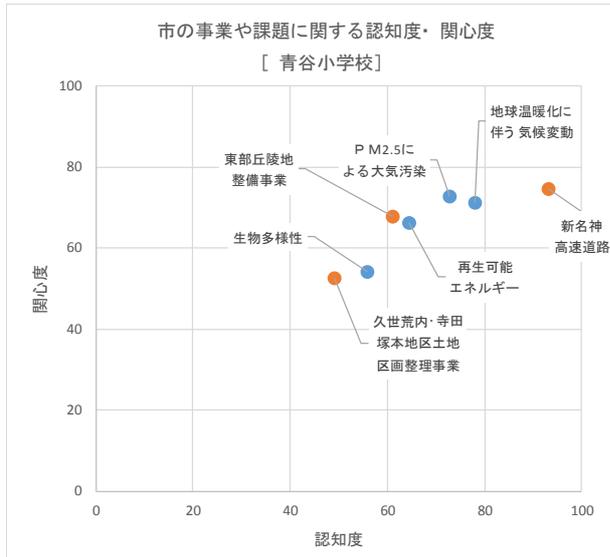
◎ 関心度



【地域別】







■ 環境に配慮した暮らしの取り組み状況

問5 1～22にあげた、環境に配慮した暮らし方のうち、日常的に取り組んでいるものがあれば、いくつでもお選びください。【1～22のうち、当てはまる番号に、いくつでも○印】

【全体】

「誰もいない部屋の電気を消す」が92.2%と最も多く、次いで「古紙・布類などを集団回収に出す」が87.8%、「てんぷら油や食べ物かすなどを排水口から流さない」が83.4%、「シャワーや蛇口の水をこまめに止める」が82.0%となっています。

上記のように、家の中でできる取組は比較的实施している割合が高くなっていましたが、「自家用車の使用を控え、電車・バス等の公共交通機関を利用する」(30.3%)、「河川、公園、道路等の美化活動に参加する」(23.5%)など、生活スタイルの変化や新たな行動の実践が必要な取組については、実施している割合が低くなっていました。同様に、「薄いタンクを設置するなどして、雨水の再利用を心がける」(9.6%)、「家庭に太陽光を設置し、再生可能エネルギーの利用を積極的に行う」(7.6%)など、新たな設備・機器の導入が必要な行動も、実施している割合が低くなっていました。

【男女別】

女性の方が実施している割合の高い行動として「てんぷら油や食べ物かすなどを排水口から流さない」「古着の寄附やフリーマーケット活用等、不用品の再利用を心がける」「再生紙や詰め替え式の製品等、環境にやさしい商品を買う」「地産地消を心がけ、地元産の農作物を買う」等がありました。

男性の方が実施している割合の高い行動としては「アイドリングストップなどのエコドライブを行う」「週末等に川・山に出かけ、地域の自然に親しむ」等がありました。

【年代別】

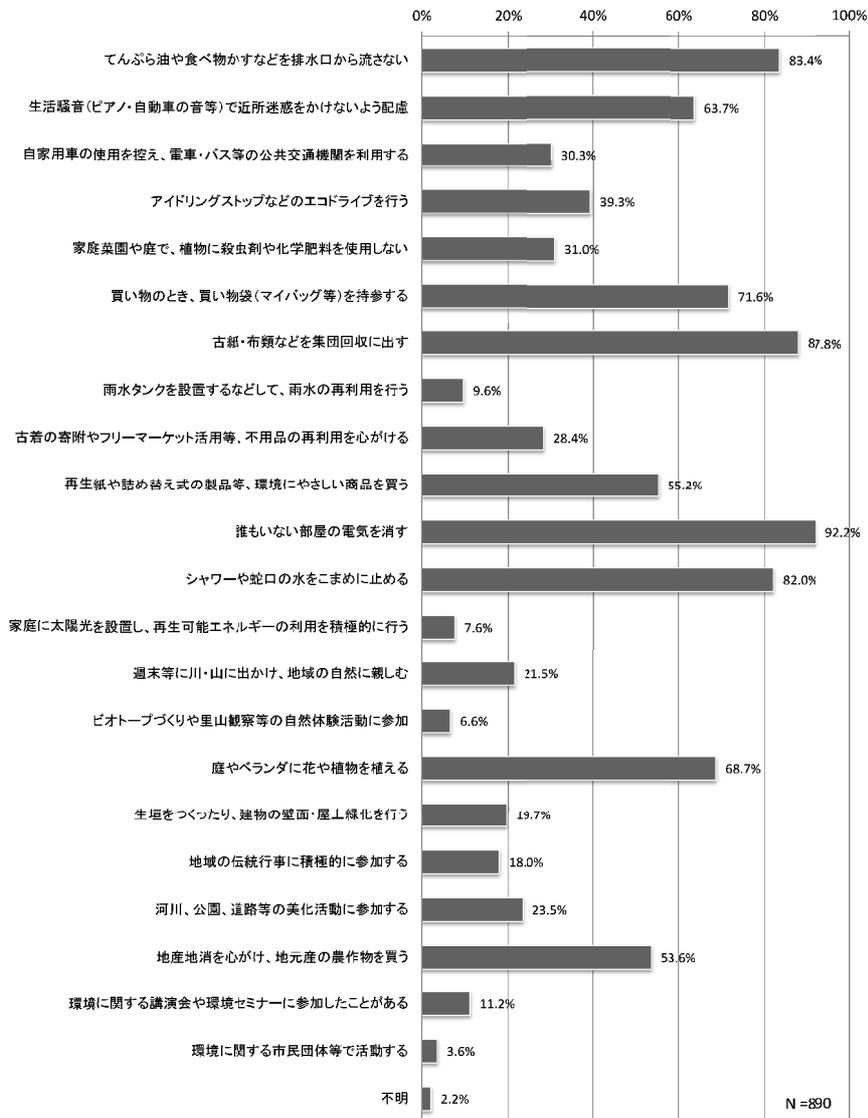
年代別に見ると、「生活騒音（ピアノ・自動車の音等）で近所迷惑をかけないように配慮」は年代の低い方がよく取り組んでいました。一方、「古紙・布類などを集団回収に出す」「家庭菜園や庭で、植物に殺虫剤や化学肥料を使用しない」「庭やベランダに花や植物を植える」「地産地消を心がけ、地元産の農作物を買う」等については、年代の高い方がよく取り組んでいます。

家庭菜園や庭での取組については、一般的に年代が上がるにつれて持ち家率が高くなることから、年代の高い方がよく取り組んでいるのだと思われます。一方、「古紙・布類などを集団回収に出す」「地産地消を心がけ、地元産の農作物を買う」について、年代の低い方が取り組んでいる割合が低くなっていることは、地域での取組への参加状況や地域への愛着が相対的に低いためと考えられます。このため、定住意識の向上という観点からも、参加・協力の呼びかけ等に加えて、市の魅力発信等にも取り組む必要があると思われます。

【前回との比較】

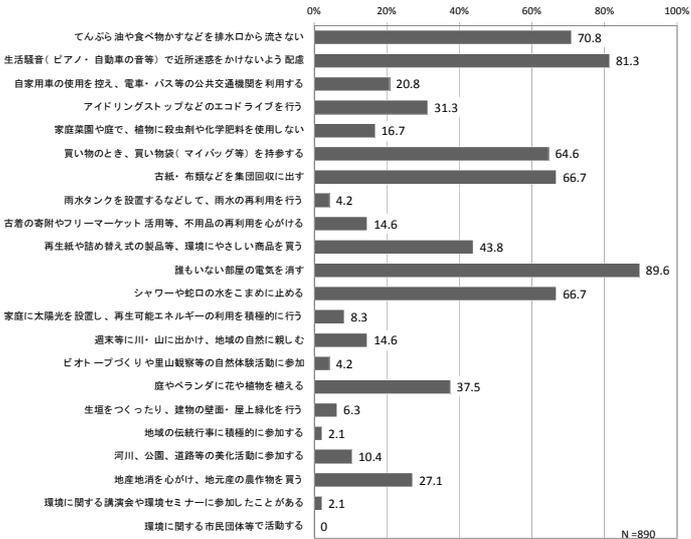
前回の調査と設問が似ている項目について、今回の調査結果と比較しました。いずれの項目についても、前回よりはしている割合がやや増加していました。最も増加の割合が高い取り組みは、「買い物のとき、買い物袋（マイバッグ等）を持参する」で、27.0%だったのに対し、今回は 71.6%に増加していました。

【全体】

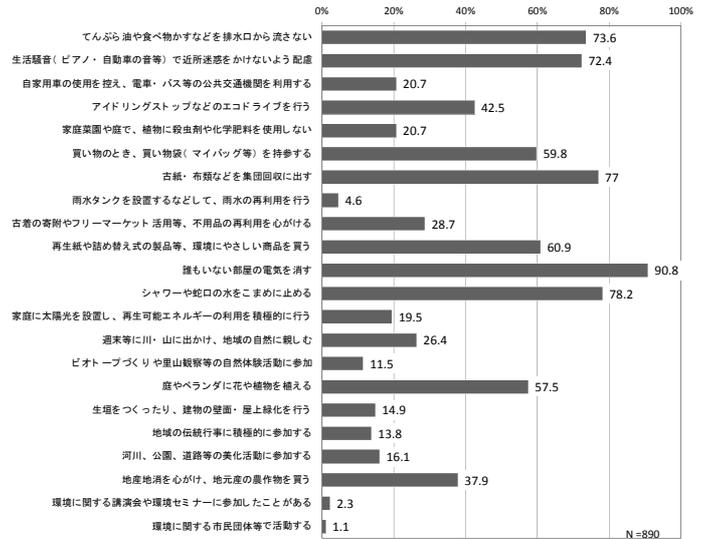


【年代別】

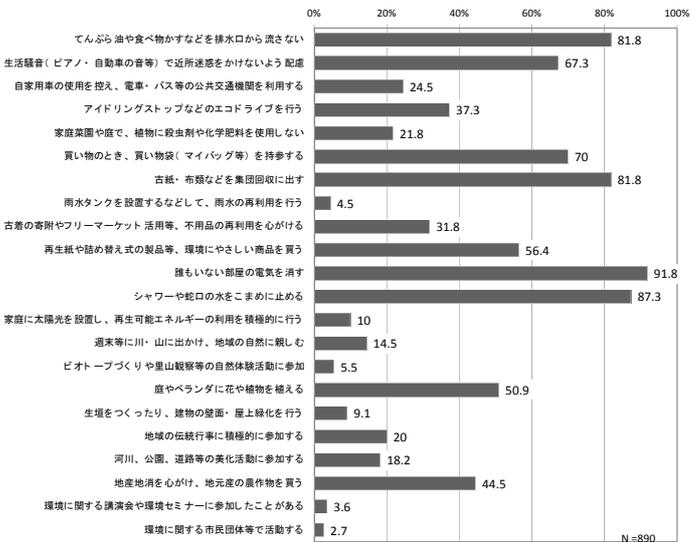
20歳代以下 (n=48)



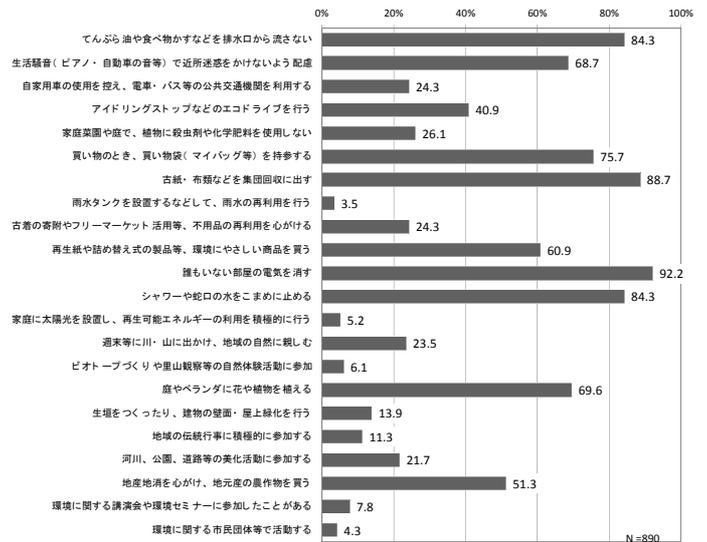
30歳代 (n=87)



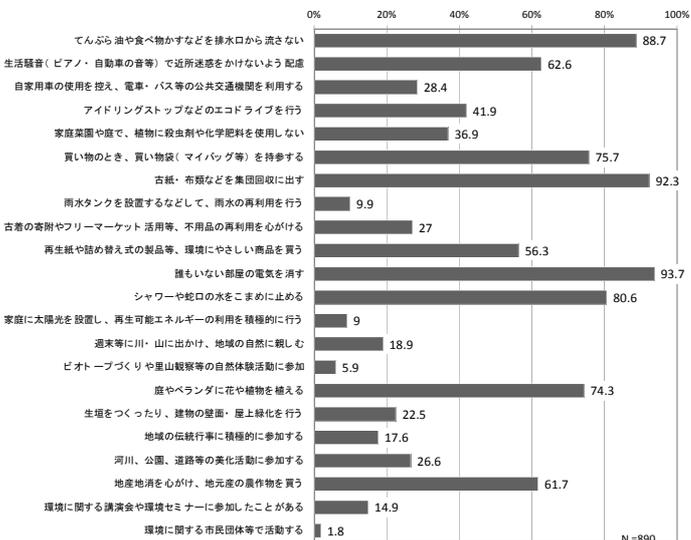
40歳代 (n=110)



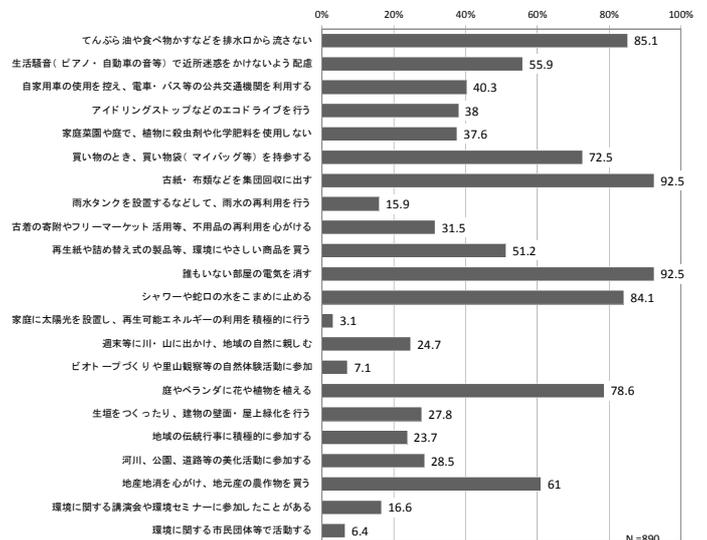
50歳代 (n=115)



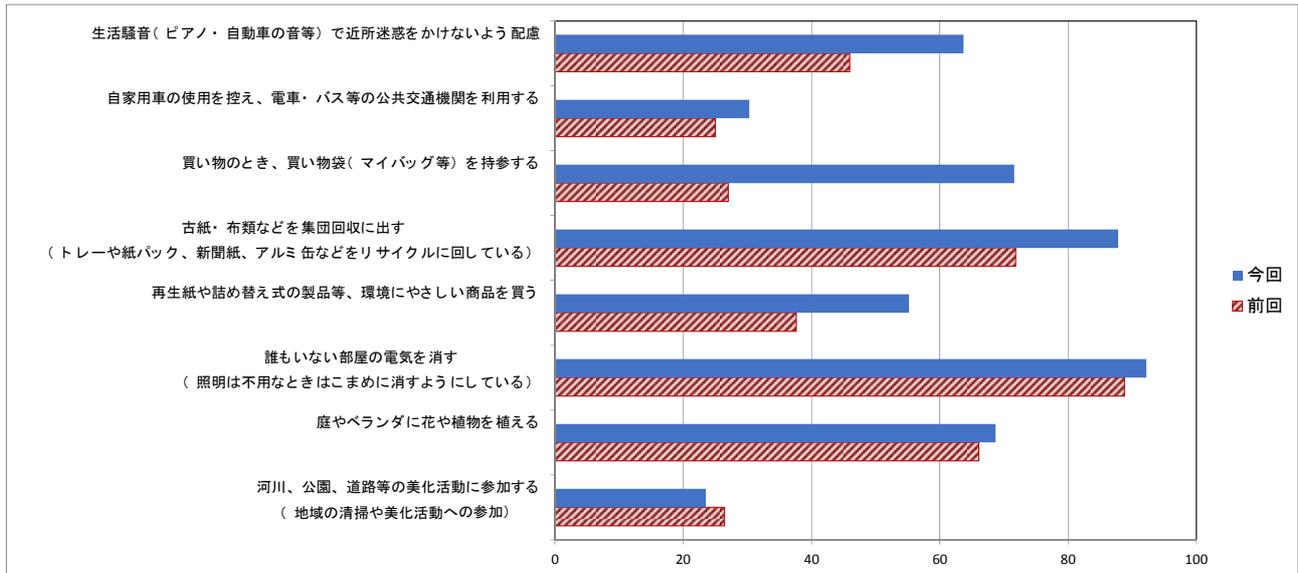
60歳代 (n=222)



70歳代以上 (n=295)



【前回との比較】



■ 理想的な将来像

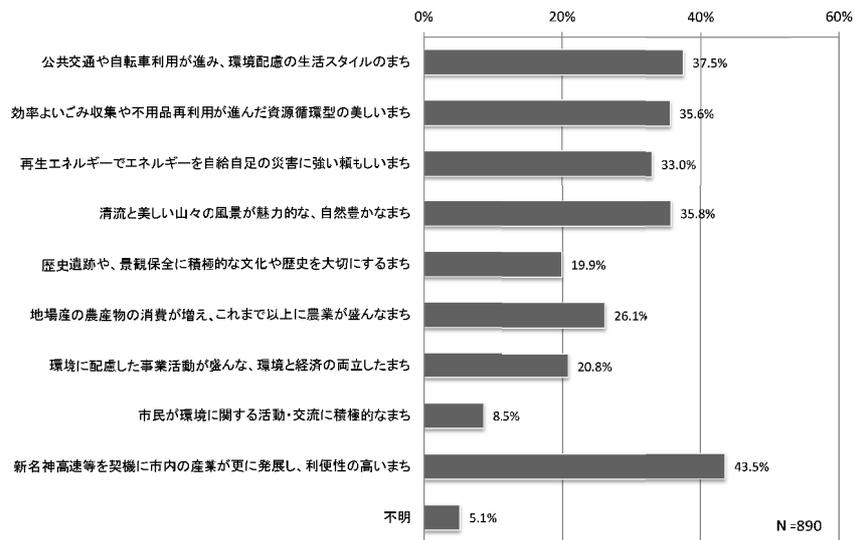
問 6-(1) 1～9 に考えられる城陽市の将来像をあげています。

この中で、あなたの理想とする城陽市の将来像に近いものがあれば、いくつでもお選びください。【当てはまる番号3つまでに○印】

【全体】

理想とする城陽市の将来像に近いものとしてあげられた割合を見ると、「新名神高速等を契機に市内の産業が更に発展し、利便性の高いまち」が 43.5%と最も多く、次いで「公共交通や自転車利用が進み、環境配慮の生活スタイルのまち」が 37.5%、「清流と美しい山々の風景が魅力的な、自然豊かなまち」が 35.8%、「効率よいごみ収集や不用品再利用が進んだ資源循環型の美しいまち」が 35.6%となっています。

他に比べてそれほど高いわけではありませんが、新名神高速道路の整備を契機として、市が発展することを期待する市民が多く見られます。



【年代別】

年代別に見ると、「再生エネルギーでエネルギーを自給自足の災害に強い頼もしいまち」「環境に配慮した事業活動が盛んな、環境と経済の両立したまち」「新名神高速等を契機に市内の産業が更に発展し、利便性の高いまち」などの、経済や産業による市の発展に関する将来像については年代の低い方がよく選んでいました。

一方、「公共交通や自転車利用が進み、環境配慮の生活スタイルのまち」「歴史遺跡や、景観保全に積極的な文化や歴史を大切にするまち」などの暮らしやすさを重視する将来像については、年代の高い方がよく選んでいました。

問 6-(2) その他、理想とする将来像があればご自由にお書きください。

890 人の回答中、240 人の方に、理想とする将来像について記述いただきました。

多く回答が見られたのは、交通の利便性向上や交通対策などの交通分野の回答が多く見られました。また、高齢者や子どもが安全で快適に過ごせるなどの快適性などについての意見も比較的多く見られました。以下に、主な意見を整理しました。

①交通について

- ・バスの本数が少なすぎ。上記 1. を答えとして選択させるわりには、バスが充実してない。
- ・自転車、歩行者（車イス、うば車等含めて）安全に通れる道路環境づくり。
- ・東西の道路が狭い。JR、近鉄をまたぐ（高架、地下）広い道路がほしい。
- ・近鉄沿線の駅（大久保～新田辺駅）の高架駅の早目の実現。電車に関わる人身事故の減少を実現してください。踏み切りの周辺が危ない所が多すぎます。

②安全や快適性について

- ・子供と高齢者の住みやすい街。その為の 1 つとして、ベビーカー、高齢者用の手押し車などを使っても歩きやすい歩道の整備が出来ている街。
- ・高齢者が楽しんで参加出来る場所を作っていただければ（例えば、青谷梅の里梅林クラブの様なもの）。

③環境について

- ・山砂利採取跡地の有効活用。公園の整備と運動施設の誘致活動。
- ・産業と自然保護との調和。その為には意識して自然保護の強化。
- ・生活環境を守り、城陽市の古墳や歴史及び自然を生かした町づくり。工場、住宅、産業の区分けを明確にし、それぞれの活性化を計る。
- ・騒音が少なく、水質がきれいな街。
- ・安全で楽しく生活できる町づくりをお願いします。

④その他

- ・高齢化に伴い元気のない市という感じがする。若い人が住み、活力ある町に将来なる事を願います。他市（近隣の）に比べ少し古臭さを感じています。他市にない目新しいものを作っては。
- ・買い物をするところや、食事をするところが少なく感じます。なんとなく夕刻がさみしい町に感じます。あまり静かな感じも怖いです。近鉄が急行など止まらないですね。

■ 城陽の魅力

問7 あなたは城陽市が他市に最も自慢できることは何だと思いますか。

890人の回答中、376人の方に、他市に最も自慢できることについて記述いただきました。

多く回答が見られたのは、空気や水のよさ、丘陵地等の生活環境のよさ、閑静な住宅街が多い、など、自然環境と風光明媚なところの記述が多く見られました。

卷 末 資 料

調 查 票

城陽市の環境に関する市民意識調査へのご協力のお願い

平成28年10月

各 位

城陽市 市民環境部 環境課

市民の皆様には、日頃から本市の環境行政にご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。

本市では、平成15年度に、人と自然とが共生した持続可能な環境を維持するための21世紀へのまちづくりの指針となる城陽市環境基本計画を策定しました。現在、その取り組みを進めているところです。

しかし、本計画も平成29年度末に計画期間を終了するため、新たに平成30年度からの環境基本計画を策定する必要があります。

つきましては、市民の皆様には本市の環境に関する評価や、日頃の環境にやさしい行動の実践状況、本市の環境に関する今後の方向性などのご意見を伺い、計画策定の基礎資料として活用したいと考えております。

このため、市内にお住まいの方々を対象に、調査票を送らせていただきました。お忙しい中、恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、調査結果は統計的に処理しますので、個人を特定することはありません。また、上記の目的以外には使用しません。

率直なご意見をお寄せください。よろしくお願いいたします。

【ご回答についてのお願い】

- それぞれの問について、あなたの考えに近い番号に○を付けてください。「その他」を選んだ場合は、具体的な内容を（ ）の中にお書きください。
- ご記入されたアンケート調査票は、返信用封筒に入れ、
10月17日（月曜日）までに、お近くの郵便ポストに入れてください。
- 本アンケート調査に関して、ご質問がありましたら下記までお気軽にお問い合わせください。

○●○アンケート調査に関する問い合わせ先○●○

城陽市 市民環境部 環境課

[電話] 0774-56-4061 [FAX] 0774-56-3999

[E-mail] kankyo@city.joyo.lg.jp

■ 現状の市政に対する評価・今後の要望

問2 以下の設問にお答えください。

- (1) 下記の1～34にあげた、城陽市の環境に対する取り組みについて、現状の市のはたらきかけに満足していますか。【1～34のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○印】
- (2) これらの取り組みのうち、市は何に優先して取り組むべきだと思いますか。城陽市にとって深刻、または重要であり、力を入れて取り組むべきだと思うことをいくつでもお選びください。【1～34のうち、あてはまる番号に、いくつでも○印】

		(1) 現状の市政 に対する評価					(2) 今後の 要望	
		満足している	ある程度、満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である	取り組むべきこと 力を入れて	
記入例		1	2	3	4	5	99	
生活	1	工場・事業所等からの大気汚染や水質汚濁の対策	1	2	3	4	5	1
	2	工場・事業所による悪臭への対策	1	2	3	4	5	2
	3	生活排水やごみの投棄などによる川の汚れの防止	1	2	3	4	5	3
	4	近隣騒音（ピアノ・カラオケ・空調室外機騒音）への対策	1	2	3	4	5	4
	5	車による騒音への対策	1	2	3	4	5	5
	6	車の排気ガスによる大気汚染への対策	1	2	3	4	5	6
	7	重金属や化学薬品等による土壌汚染への対策	1	2	3	4	5	7
	8	ダイオキシン等の有害化学物質による環境汚染への対策	1	2	3	4	5	8
	9	ゲリラ豪雨等の気候変動に対応した防災対策	1	2	3	4	5	9
自然	10	森林等の緑の保全	1	2	3	4	5	10
	11	生態系に配慮した水辺の保全	1	2	3	4	5	11
	12	身近な生き物の減少を防ぐ	1	2	3	4	5	12
	13	生き物観察会等、生き物とふれあう場や機会の提供	1	2	3	4	5	13
	14	開発や耕作放棄などによる農地の減少を防ぐ	1	2	3	4	5	14
	15	東部丘陵地区の環境再生	1	2	3	4	5	15
	16	地下水の保全	1	2	3	4	5	16
	17	自然・文化の魅力を観光産業に活かす取り組み	1	2	3	4	5	17

< 次のページに続く >

			(1) 現状の市政 に対する評価					(2) 今後の 要望
			満足している	ある程度、満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である	取り組むべきこと 力を入れて
快適	18	公園・緑地の充実等、まちなかの緑の保全	1	2	3	4	5	18
	19	河川敷、水辺にふれあえる場所を増やす	1	2	3	4	5	19
	20	歴史・文化を活かした景観の保全	1	2	3	4	5	20
	21	田園・里山・河川敷等の豊かな自然風景の保全	1	2	3	4	5	21
	22	公共交通の充実や自転車の普及等、自動車の利用を減らす取り組み	1	2	3	4	5	22
循環	23	家庭のごみの減量やリサイクルの促進	1	2	3	4	5	23
	24	ごみの不法投棄への対策	1	2	3	4	5	24
	25	産業廃棄物の適正処理や法令遵守の徹底	1	2	3	4	5	25
	26	太陽光発電の普及・促進	1	2	3	4	5	26
	27	風力・小水力発電の導入	1	2	3	4	5	27
	28	稲わら、間伐材等、未利用バイオマスの活用	1	2	3	4	5	28
参加	29	環境負荷を減らす技術開発への支援等、環境産業の発展	1	2	3	4	5	29
	30	環境に配慮した事業活動の普及・促進	1	2	3	4	5	30
	31	市内の環境に関する情報の公開・発信	1	2	3	4	5	31
	32	環境学習や環境教育の推進	1	2	3	4	5	32
	33	市民団体や事業者による、環境活動への支援	1	2	3	4	5	33
地球環境	34	地球温暖化による気候変動への対策	1	2	3	4	5	34

(3) その他、市に行ってほしい取り組みや要望があれば、ご自由にお書きください。

■ 住まい周辺環境の評価

問3 下記の1～14にあげた、お住まいの地域の環境について、
どの程度、満足していますか。【1～14のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○印】

		満足している	満足している ある程度、	いえない どちらとも	やや不満である	不満である
1	空気のきれいさ	1	2	3	4	5
2	まちの静かさ	1	2	3	4	5
3	まちの清潔さ	1	2	3	4	5
4	川や池の水のきれいさ	1	2	3	4	5
5	飲み水のおいしさ	1	2	3	4	5
6	まちや住宅地の花や緑	1	2	3	4	5
7	水や水辺とのふれあい	1	2	3	4	5
8	土とのふれあい	1	2	3	4	5
9	野鳥や昆虫、さかななど 自然の生物との親しみ	1	2	3	4	5
10	森や野山などの自然の風景 や景観の楽しみ	1	2	3	4	5
11	まちなみのゆとり、美しさ	1	2	3	4	5
12	歩行者街路の快適さ	1	2	3	4	5
13	自転車による交通の快適さ	1	2	3	4	5
14	広場や公園との親しみ	1	2	3	4	5
15	文化的遺産や歴史的な まちなみとの親しみ	1	2	3	4	5

■ 環境問題・市のまちづくりに対する認知度・関心度

問4 私たちを取り巻く環境においては、下記の1～4のような問題が話題となっています。

また、城陽市では下記の①～③の新たなまちづくりに係る事業を進めています。

これらの問題や事業をご存知でしたか。またこのような問題や事業に関心がありますか。

【1～4また①～③の取り組みごとに、「認知度」「関心度」それぞれについて、当てはまる番号を1つずつ○印】

		認知度 [どちらかに○印]		関心度 [どちらかに○印]	
		知っている	知らない	関心がある	関心がない
記入例		①	2	①	2
1	再生可能エネルギー				
	有限で枯渇の危険性がある石油や石炭などの化石燃料や原子力と異なり、太陽光や風力などの自然エネルギーや廃棄物発電等のリサイクルエネルギーを示すもの	1	2	1	2
2	PM2.5による大気汚染				
	燃料の燃焼や工場での生産工程から排出される汚染物質で大気が汚染されることを大気汚染という。汚染物質のうち微小粒子状物質をPM2.5といい、人体への影響がより大きいとされる。PM2.5の発生源は、車の排ガス、ボイラーや焼却炉等の施設、土壌・海洋からの自然発生、海外からの越境など様々とされている。	1	2	1	2
3	地球温暖化に伴う気候変動				
	産業の発展など、人間の活動の拡大により二酸化炭素など温室効果ガスが増加し、地球の温度が上昇する地球温暖化は、洪水や干ばつの増加などの気候変動の原因とされる	1	2	1	2
4	生物多様性				
	生物多様性は生命の豊かさを包括的に表す広い意味を持つ言葉。食料や薬品などの生物資源は人類が生きる上で不可欠だが、近年は絶滅する生物が増え、生物多様性の低下が問題となっている	1	2	1	2
①	新名神高速道路事業				
	現在工事が進められており、城陽一八幡間が平成28年度末に開通予定	1	2	1	2
②	久世荒内・寺田塚本地区土地区画整理事業				
	同地区の土地区画整理事業により、企業誘致を図るもの	1	2	1	2
③	東部丘陵地整備事業				
	東部丘陵地整備計画に基づき、山砂利採取跡地においてまちづくりを進めるもの	1	2	1	2

■ 環境に配慮した暮らしの取り組み状況

問5 下記の1～22にあげた、環境に配慮した暮らし方のうち、日常的に取り組んでいるものがあれば、いくつでもお選びください。【1～22のうち、当てはまる番号に、いくつでも○印】

【生活環境の保全】

1. てんぶら油や食べ物かすなどを排水口から流さない
2. 生活騒音（ピアノ・自動車の音等）により近所迷惑をかけないように配慮する
3. 自家用車の使用を控え、電車・バス等の公共交通機関を利用する
4. アイドリングストップなどのエコドライブを行う
5. 家庭菜園や庭で、植物に殺虫剤や化学肥料を使用しない

【資源の有効利用】

6. 買い物するとき、買い物袋（マイバッグ等）を持参する
7. 古紙・布類などを集団回収に出す
8. 雨水タンクを設置するなどして、雨水の再利用を行う
9. 古着の寄附やフリーマーケットの活用等、不用品の再利用を心がける
10. 再生紙や詰め替え式の製品等、環境にやさしい商品を買う

【地球温暖化対策・再生可能エネルギー】

11. 誰もいない部屋の電気を消す
12. シャワーや蛇口の水をこまめに止める
13. 家庭に太陽光発電パネルを設置し、再生可能エネルギーの利用を積極的に行う

【自然との共生】

14. 週末等に川・山に出かけ、地域の自然に親しむ
15. ビオトープづくりや里山観察等の自然体験活動に参加したことがある

【快適な都市環境】

16. 庭やベランダに花や植物を植える
17. 生垣をつくったり、建物の壁面・屋上緑化を行う
18. 地域の伝統行事に積極的に参加する
19. 河川、公園、道路等の美化活動に参加する

【環境と産業】

20. 地産地消を心がけ、地元産の農作物を買う

【学習と協働】

21. 環境に関する講演会や環境セミナーに参加したことがある
22. 環境に関する市民団体等で活動する

■ 理想的な将来像

問6 以下の設問にお答えください。

(1) 下記の1~9に考えられる城陽市の将来像をあげています。

この中で、あなたの理想とする城陽市の将来像に近いものがあれば、いくつでもお選びください。【1~9のうち、当てはまる番号3つまでに○印】

1. 自動車に代わり、バスや乗り合いタクシー等、公共交通機関の充実や自転車のネットワーク整備が進み、空気がきれいで、環境に配慮した生活スタイルの浸透したまち
2. ごみ収集を効率よく行う仕組みや、不用品を再利用する仕組みが整った、資源循環型の美しいまち
3. 再生可能エネルギーの活用により、エネルギーを自給自足でき、災害に強い頼もしいまち
4. 生態系に配慮した山林・水辺の整備が進み、これまで以上に清流と美しい山々の風景が魅力的な、自然豊かなまち
5. 現存する歴史的な遺跡や、景観の保全を積極的に行う、文化や歴史を大切にするまち
6. 特産物のブランド化や地元でとれた農作物の地産池消により、地場産の農産物の消費が増え、これまで以上に農業が盛んなまち
7. 市内の企業集積を活用し、環境関連産業の発展とともに、企業が環境に配慮した事業活動を盛んに行う、環境と経済の両立したまち
8. 歴史民俗資料館等、地域の風土・文化を学ぶことができる公共施設が充実し、地域の自然を活用した体験学習や市民団体による自然学習、保護活動が盛んな、市民が環境に関する活動・交流に積極的なまち
9. 現在整備中の新名神高速道路やJR奈良線の複線化などを契機に、市内の産業がますます発展し、利便性の高いまち

(2) その他、理想とする将来像があればご自由にお書きください。

[]

■ 城陽の魅力

問7 最後に、あなたは城陽市が他市に最も自慢できることは何だと思えますか。ご自由にお書きください。

[]

ご協力、ありがとうございました。